第 12 回

環境マネジメント全国学生大会

―実施報告書―

2018.9.6(木),9.7(金)　信州大学上田キャンパス

主催：信州大学環境学生委員会

ごあいさつ　―大会実行委員長―

信州大学繊維学部 3 年　大崎早恵

先の 9 月、全国各地から信州上田へ『第 12 回環境マネジメント全国学生大会』にお越しくださり誠にありがとうございました。

今大会の開催にあたり、まず、この環境マネジメント全国学生大会の前身である『環境 ISO 学生委員会　全国大会 2006』が信州大学工学部で開催されたことを、保管してあった資料を見つけ知りました。実に 12 年ぶりに信州へ戻ってきた大会です。そこで、近年の大会趣旨に加え、貴重な第 1 回大会資料を参考に、当大会の起源や歴史についてもこの報告書に記載し伝承していきたいと思います。当大会は、参加大学の持ち回りで主催が変わり、開催地が移り、雰囲気が変わる。という面白い特徴を持つ、学生が創る学生のための「環境」を中心とした大会です。この特徴が当大会の魅力であり、他の環境系イベントとの差別化にも繋がります。今回皆様が"信大らしさ"を楽しんでいただけたならば大変嬉しく思います。

さて、当報告書は、第 12 回大会の様子を"写真多めに"記録・編集したメモリアルブックです。大会へ参加された方はもちろん、「当日参加できなかったが興味はある」といった方にも是非ご覧いただきたい一品です。今大会は、「私たちから変える未来」「僕らが始める SDGs」とテーマ・ゴールを設定し、"行動力"の刺激に焦点を当てました。2 日間の経験を思い出したり、聞き逃していた内容を見つけたりと"残る記憶"として、また、新たな気づきや行動の"きっかけ"としてお役に立てれば幸いです。

第 12 回大会開催にご尽力いただいた皆様、そしてご参加、ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

―目次―

0. 大会の歴史・・ **3**

1. 大会概要・・・ **5**

2. アイスブレイク・・ **11**

3. 活動報告・・・ **13**

3-0. SDGsとは 14

3-1. 岩手大学 環境マネジメント学生委員会 18

3-2. 千葉大学 環境ISO学生委員会 21

3-3. 中部大学 ESDエコマネーチーム 25

3-4. 三重大学 環境ISO学生委員会 28

3-5. 大阪大学 環境サークルGECS 31

3-6. 公立鳥取環境大学 学生EMS委員会 35

3-7. 琉球大学 エコロジカル・キャンパス学生委員会 37

3-8.1. 信州大学 環境教育海外研修 40

3-8.2. 信州大学 環境学生委員会(全学) 43

3-8.3. 信州大学 松本キャンパス環境学生委員会 44

3-8.4. 信州大学 工学部環境学生委員会 46

3-8.5. 信州大学 農学部環境学生委員会 48

3-8.6. 信州大学 繊維学部環境学生委員会 50

4. 基調講演・・・ **53**

5. キャンパスツアー・・ **55**

6. 分科会・・ **59**

7. 大会ゴール企画・・・ **67**

8. 大会関連情報・・ **73**

8-1. 事前準備・当日運営の様子 74

8-2. 聴講生募集ポスター 75

8-3. 信州大学関連団体情報 76

8-4. 取材結果 77

8-5. 収支報告 78

8-6. 参加団体情報 79

0. 大会の歴史

0. 大会の歴史

はじまり

第 1 回大会『環境 ISO 学生委員会　全国大会 2006』は、信州大学工学部で開催された。

第 1 回大会　開催目的

京都議定書に代表される地球温暖化問題,RoHS 指令に代表される有害化学物質汚染問題など,21 世紀の人類は深刻な環境問題のなかで持続可能な社会を構築しなければならない状況に置かれている.この環境問題を克服するためには,あらゆる分野において環境マインドをもつ人材の養成が重要になる.

いま,わが国では ISO14001 認証取得のエコキャンパス構築が行われはじめ,各エコキャンパスにはその構築・発展を担っている環境 ISO 学生委員会などの環境マインドのトップランナーたちがいる.この全国大会は,全国の環境マインドをもつトップランナーたちが一同に集い,エコキャンパス構築・発展の実際について最新動向を明らかにするとともに環境マインドをもつ人材養成のポイントを探る目的で開催した.

(引用元：信州大学環境 ISO 学生委員会　全国大会 2006 報告書)

大会名の変更

第 11 回大会において、「全国環境 ISO 学生大会」から「環境マネジメント全国学生大会」へと名称変更された。

この全国大会は、ISO を取得し活動している団体が集まり、お互いの活動についての報告や、ある問題について議論していく大会であった。しかし、ここ数年で ISO を返上し、独自の環境マネジメントシステムのもと活動を行う団体が多くなったことを踏まえ、2017 年度の第 11 回大会において大会名が＜環境マネジメント全国学生大会＞へと変更された。また近年の大会では、参加基準は”環境活動に興味のある学生“となり、幅広いターゲット層となったようだ。

全国大会　主催大学一覧

第1回	信州大学	長野県	2006	6/1,2
第2回	千葉商科大学	千葉県	2007	6/22,23
第3回	武蔵工業大学(現東京都市大学)	東京都	2008	9/20,21
			2009	
第4回	麻布大学	神奈川県	2010	8/24,25
第5回	工学院大学	東京都	2011	8/24,25
第6回	千葉大学	千葉県	2012	8/20,21
第7回	中部大学	愛知県	2013	8/26,27
第8回	中部大学	愛知県	2014	8/27,28
第9回	三重大学	三重県	2015	9/4,5
第10回	千葉大学	千葉県	2016	9/5,6
第11回	岩手大学	岩手県	2017	9/13,14
第12回	信州大学	長野県	2018	9/6,7

1. 大会概要

大会プログラム

９月６日（木）

12:00～12:50	受付
13:00～13:15	開会式
13:15～14:00	アイスブレイク
14:00～14:10	活動報告(説明)
14:10～14:25	休憩
14:25～15:25	活動報告(岩手,千葉,中部,三重)
15:25～15:35	休憩
15:35～16:35	活動報告(大阪,鳥取環境,琉球,海外研修)
16:35～16:50	休憩
16:50～17:40	活動報告(信州)
18:30～20:00	懇親会

９月７日（金）

8:30～9:00	受付
9:15～10:30	基調講演
10:30～12:10	キャンパスツアー
12:10～13:00	昼休憩
13:00～14:15	分科会(グループワーク)
14:15～14:35	休憩(もぐもぐタイム)
14:35～16:00	分科会(発表)
16:20～17:00	閉会式

1. 大会概要

看板

＜開催日＞

平成 30 年 9 月 6 日(木)、9 月 7 日(金)

＜開催地＞

信州大学上田キャンパス

＜主催＞

信州大学環境学生委員会

＜参加大学＞

岩手大学、大阪大学、公立鳥取環境大学、
信州大学、千葉大学、中部大学、
三重大学、琉球大学 (五十音順)

国の登録有形文化財 講堂

開催目的

環境マネジメントシステムの運用に取り組む全国の大学生が集い、互いの活動報告や分科会での意見・情報交換、基調講演を拝聴することで各団体が課題を発見し合い、新たな活動の可能性を創造すること。また、この大会において学生が交流を深めていくことにより、互いの価値観を共有して今後の活動の幅を広げてること。

大会テーマ：私たちから変える未来

～今できること、していることは 2030 年にはどのように影響するのか～

私たちの「今」の活動を知り、それが「未来」と繋がる持続可能な活動となるためにどのような工夫が必要かを考え、活動の発展に繋げる。我々の世界を変革する持続可能な開発のための 2030 アジェンダである SDGs (Sustainable Development Goals)の 17 の目標の幾つかと結びつけながら各団体の活動内容を知り、学び、アイディアを出し合う。

大会成果

8 大学から環境委員会や環境サークルに所属する学生 76 名、長野県内大学からの聴講生 1 名、信州大学をはじめ教職員 17 名が参加。2 日間に渡り交流や議論が活発に行われた。各項目の詳細は後述する。

会場受付

今大会は信州大学繊維学部の学生団体であるハナサカ軍手ィプロジェクトとコラボし、大会記念品としてデザイン軍手“軍手ィ”を参加者に配布。
軍手ィとパッケージは「信州」「環境」をモチーフに繊維学部環境学生委員会のメンバーがデザインした大会オリジナルの柄。

清掃活動や野外イベント等、普段の活動で使っていただきたい。

←軍手ィ
(大会記念品)

総合司会の進行により第 12 回大会がスタートした。開会式では今大会の統括である信州大学繊維学部環境学生委員会委員長の大崎、そして信州大学濱田学長、大会責任者である信州大学繊維学部の高橋教授のあいさつが行われた。

大会統括(実行委員長)　大崎早恵

信州大学　濱田州博学長

大会責任者　高橋伸英教授

大会開催日近くに発生し近畿地方を直撃した台風 21 号、大会初日の早朝に発生した北海道胆振東部地震と決して穏やかな日常ではなかった中での開催となったが、無事にすべての団体が参加できたことはなにより安心した。

会場の様子

大会テーマを参加者全員で共有した後、まずは学生同士の自己紹介。アイスブレイクの詳細は 11 ページへ。

自己紹介し合う参加学生

和やかなムードになったところで、今大会のテーマに大きく関連する SDGs について説明。基本的な内容を参加者全員で再確認した。

大会副統括　鷹澤響

休憩をはさみ、1 日目のメインコンテンツである活動報告が始まった。8 大学 11 団体の学生がそれぞれ 7～15 分間(質疑応答含む)の発表を行った。

各発表はパワーポイントを用いた学会方式で実施。また、今大会のテーマに合わせ、関係性のある SDGs のアイコンを各活動スライドにて表示するよう条件を決めていたことで、より分かりやすく、かつ身近に SDGs を意識できる発表であった。活動報告の詳細は 13 ページへ。

質疑の様子

活動報告終了後は会場を移動し、上田市内の宴会場にて懇親会を実施し 72 名が参加。約 1 時間半の間、食事をしながら交流を深めた。ソフトドリンク飲み放題の立食ビュッフェ形式で懇親会費は 2,500 円。

2 日目は基調講演で幕開け。今回は長野県における環境活動、取り組みに関して長野県副知事の中島恵理氏、NPO 法人上田市民エネルギー理事長の藤川まゆみ氏にご登壇いただき、参加学生への激励と共に貴重なお話をいただいた。基調講演の詳細は 53 ページへ。

長野県副知事　中島恵理氏

NPO 法人上田市民エネルギー理事長　藤川まゆみ氏

基調講演終了後は、キャンパスツアーを実施。信州大学繊維学部のキャンパス内 6 つの施設を紹介した。キャンパスツアーの詳細は 55 ページへ。

説明の様子

直前まで天候が心配されたが、なんとか回復し、無事に実施することができた。

移動の様子

キャンパスツアー終了後は、集合写真を撮影し、昼食タイムへ。昼食は生協のお弁当を用意。

お弁当配布の様子

いよいよ大会も大詰め。午後からは分科会を実施した。まずはグループワークを行い、休憩をはさみ各グループの発表を行った。5 つのテーマについてそれぞれ分かれ、活発に討論が行われた。分科会の詳細は 59 ページへ。

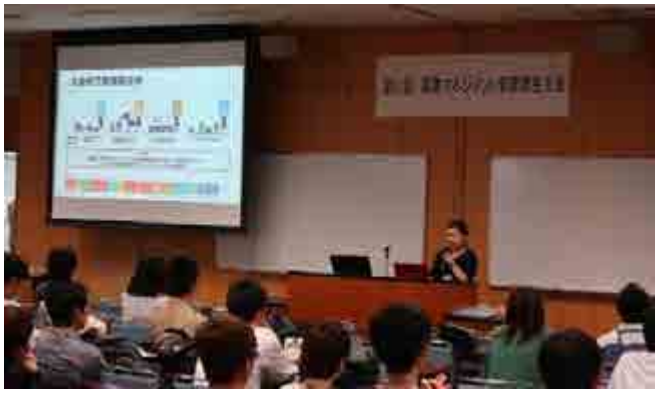
グループワークの様子

各グループ 4 ページ以内のスライドを作成し、導き出した結論、アイディアを発表した。模造紙にまとめるのではなくスライドを作成するという新しい発表形式を試みた。また、発表内容について各大学から参加していた教職員の方から講評を受けた。

発表の様子

閉会式では、信州大学平野理事からの講評ならびに大会統括のあいさつで幕を閉じた。また、大会アンケートの記入、大会ゴールについて大会終了後実施企画の説明を行った。ゴール企画の詳細は 67 ページへ。

信州大学　平野吉直理事



大会ゴール企画説明の様子

2. アイスブレイク

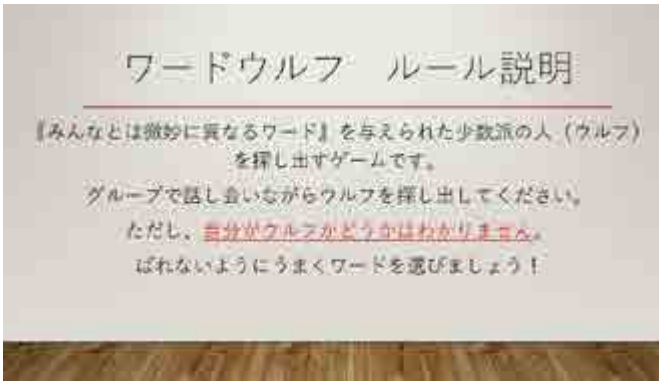
2. アイスブレイク

開会式のあとにアイスブレイクを行いました。全国各地から集まった初対面の仲間と自己紹介を兼ねたゲームで緊張をほぐしました。

ゲームのルール説明

アイスブレイク担当は信州大学農学部 ESC。スライドと実演でのルール説明は好評でした。今回は 2 つのゲームを準備。5,6 人でグループを作り、名札を見せ合いながらゲームを進めていきます。意外と難しい！という声もありましたが、笑顔絶えることなく参加学生は楽しんでいました。

前半はカタルタを使って自己紹介



後半はワードウルフ

また、アイスブレイクの様子を見ていた教職員の方々から「これいいね！」と絶賛の声も…。

3. 活動報告

3-0. SDGs とは？

各団体の活動報告の前に SDGs の概要説明を大会副統括より行いました。今大会では、活動報告のスライドに関係性の深い SDGs の目標アイコンを表示するよう定めており、各団体の活動がどの分野に繋がるものなのかを理解するためにも重要な共有内容でした。

発表の様子

今大会のテーマには SDG s という国際的な枠組みを念頭に置いています。

SDG s とは Sustainable Development Goals、和訳すると「持続可能な開発の目標」の頭文字をとったものです。

世界のリーダーが 2015 年 9 月の歴史的な国連サミットで採択した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に掲げられた 17 の「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2016 年 1 月 1 日に正式に発効しました。SDGs は先に実施されていた、ミレニアム開発目標（MDGs）の成果をさらに一歩進め、あらゆる形態の貧困に終止符を打つことをねらいとしています。これから簡単にではありますが 17 の目標について見ていきましょう。

目標 1 貧困を無くそう

先に申し上げた通り、貧困と言うのは SDG s における一貫したキーワードです。ここで言う貧困とは単に、持続可能な生活を確保する収入や資産がないことではありません。それは飢餓や栄養不良、教育その他の基本的サービスへのアクセス不足、社会的な差別や排除を含みます。

目標 2 飢餓をゼロに

1 の貧困とも密接にかかわっていますが、飢餓は未だ重大な国際的課題です。現時点で空腹を抱えているとされる 7 億 9,500 万あまりの人々と、2050 年までに増加が予測される 20 億人に食料を供給するためには、世界の食料・農業システムを根本的に変革することが必要です。食料・農業部門は開発課題の解決に鍵を握るだけでなく、飢餓と貧困の根絶にも中心的な役割を果たします。

目標 3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することは、持続可能な開発に欠かせません。清潔な水と衛生へのアクセスの拡大、マラリア、結核、ポリオ、HIV／エイズ蔓延の削減について国際的な取り組みは一定の成果を示しつつあります。しかしながら、未だこのような健康課題は多くあり、また、開発途上国においては今後平均寿命が伸びることで今まで無かったさらなる問題が表面化してくることも予想されます。

目標４質の高い教育をみんなに

教育は、人々の生活改善と持続可能な開発の基盤です。国際的な取り組みによって基本的識字率は大きく改善しているものの、普遍的な教育に関する目標を達成するためには、さらに一層の取り組みが必要でしょう。また、男女差、貧富の差によらない質の高い教育の機会の確保は、日本でも重要な課題です。

目標５ジェンダー平等を実現しよう

世界はミレニアム開発目標（MDGs）の下で、ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントに向けた取り組みは行われましたが、未だに女性差別の問題は世界各地で起こっています。ジェンダーの平等は基本的人権であるだけでなく、平和で豊かかつ平等なアクセスを提供し、働きがいのある仕事、政治・経済の場での女性による活躍を増やすことも含まれます。このようなことの達成は、持続可能な経済が促進され社会と人類全体の利益となるでしょう。しかしながらこの問題は単純ではなく、文化的・宗教的な価値観などが壁として現れます。

目標６安全な水とトイレを世界中に

清潔な水の確保は、衛生環境の改善において重要なファクターです。地球上には、これを達成するのに十分な真水があるにもかかわらず、経済の悪化やインフラの不備によって、数百万人が今も水不足や劣悪な衛生状態の中にいます。また、このままの勢いで人口が増加した場合、2050 年までに、4 人に 1 人以上が慢性的または反復的な水不足を抱える国で暮らすことになると見られています。

目標７エネルギーをみんなに そしてクリーンにエネルギーは現在、世界が抱える重要な課題で中心的な位置を占めています。雇用、安全保障、気候変動、食料生産、所得の増加、すべての人のエネルギーへのアクセスは必要不可欠です。持続可能なエネルギー(所謂クリーンエネルギーと呼ばれるもの)は、生活や経済、また、私たちの活動の基盤をなすものであり、そして地球の変革を図るための大きなチャンスでもあります。

目標８働きがいも経済成長も

これも目標１と深く関連した目標です。世界人口の約半数は 1 日約 2 ドル相当の所得で生活していると言われています。貧困根絶のためには経済・社会政策の見直しと改革が迫られています。ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）というのも重要なキーワードです。こういった仕事への機会の欠如、不十分な投資、過少消費が続いていることで、民主主義社会の根底をなすはずの基本的な社会契約が形骸化していることも大きな問題であると言えます。このような質の高い雇用の創出は、途上国のみならず先進国においても重要な課題と言えるでしょう。

目標９産業と技術革新の基盤を作ろう

ここでいう基盤は、灌漑や情報通信技術などのインフラがひとつ、もうひとつは技術革新を挙げています。資源効率の改善や省エネなどの環境関連の目的達成に向けた取り組みには技術革新が欠かせません。技術やイノベーションがなければ産業化は起こりえず、産業化がなければ開発は起こりえないからです。

目標 10 人や国の不平等を無くそう

国際社会の努力によって、貧困からの脱出は遅々とした歩みであるものの進行しつつあります。しかしながら、不平等が解消せず、健康・教育サービスその他の資源へのアクセスという点で、国家間、国内においても大きな課題が残っています。とくにめざましい経済発展を遂げる一方で国内での経済格差が大きくなる問題も起こっており、そういったことへの対処も必要となってくるでしょう。

目標 11 住み続けられるまちづくりを

都市は商取引、文化、科学、生産性、社会開発など、多くの物事の中心地となっています。最良の状態なら、都市は人々が社会的、経済的に前進を遂げることを可能にしてくれるでしょう。しかし、過密、基本的サービスを提供するための資金の不足、適切な住宅の不足、インフラの老朽化などの問題は、日本のみならず各国で問題になっています。

目標 12 つくる責任 つかう責任

持続可能な消費と生産には、インフラ、基本的なサービス、やりがいのある仕事、生活の質的向上を提供することが重要です。これを実現すれば、開発計画の達成、将来的な経済・環境・社会コストの削減、経済的競争力の強化、貧困の削減に役立ちます。これらの取り組みを実現することは、他の目標を達成する上でも重要な課題となるでしょう。

目標 13 気候変動に具体的な対策を

先日も台風がありましたが、今年度も日本全国で猛暑に見舞われ、年々の気候変動は無視できない実感を伴って私たちの生活に影響を及ぼしています。国際的にも気候変動によって人々の生活に大きな影響を及ぼしています。地球温暖化等の影響も見過ごせません。気候変動は国境を越えたグローバルな課題です。このような気候変動に対して具体的な対策を講じることは重要であると言えるでしょう。

目標 14 海の豊かさを守ろう

世界の海洋は、その温度、化学的性質、海流、生物を通じ、地球を人間にとって住みよい場所にする地球規模のシステムです。雨水や飲み水、気象、気候、海岸線、私たちの食料の多く、さらには私たちが吸っている大気中の酸素でさえ、海の恩恵を受けています。海洋は歴史全体を通じ、貿易や輸送に不可欠な経路にもなってきました。海を守ることは私たちの生活を守る上で重要な要素であるでしょう。

目標 15 陸の豊かさも守ろう

地表の 30%を覆う森林は、気候変動と闘い、生物多様性や先住民の居住地を保護するうえでも鍵を握る役割を果たします。毎年、1300 万ヘクタールの森林が失われる一方で、乾燥地が進み、36 億ヘクタールが砂漠化しているとも言われています。

これらの変動に対しての対策は重要な課題です。

目標 16 平和と公正をすべての人に

「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標 16 は、持続可能な開発に向けた平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供し、 あらゆるレベルで効果的で責任ある制度を構築することを定めています。各国においてこのようなシステムを整理していくことは重要な課題であると言えます。

目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGs のキーワードに「誰も取り残さない」というものがあります。今までに挙げた 16 の目標達成には、行政・民間・市民のパートナーシップが必要です。17 番目の目標はすべての課題達成のための手段と意義であるともいえるでしょう。

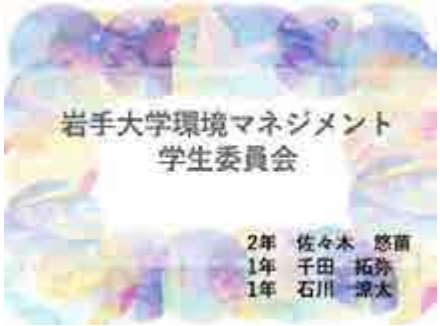
2030 年まであと 12 年。SDG s を達成するために、今の私たちは何ができるているのか。また、何をしていくべきなのか。今回の大会を通じ、それを皆さんで考え、議論していければと思います。

3-1. 岩手大学 環境マネジメント学生委員会

活動報告のトップバッターは、岩手大学環境マネジメント学生委員会。参加者 3 名による発表。

発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子



私たちは岩手大学環境マネジメント学生委員会です。通称 EMSC と言われています。本日は 3 名で発表させていただきます。宜しくお願いします。

まず今回の概要についてご説明します。はじめに EMSC の組織概要や環境方針について、次に代表的な活動の紹介、また EMS の功績について、最後に EMS の今後の展望についてお話しさせていただきます。

私たちは通称 EMSC と言われていると冒頭にお話しましたが、その EMSC というのは、様々な単語の頭文字をとってできています。

次に、私たちの環境方針についてお話させていただきます。一つ目に、岩手大学環境マネジメントシステムの構築に主体的に参画する、二つ目に、学生による自主的な環境活動を積極的に実施する、三つ目に、岩手大学の EMS の維持と大学及び周辺地域における環境の継続的改善となっております。

また、私たちはこれらの活動が円滑に行なわれるように、執行部を中心として 6 つのチームに分かれて活動を行っています。この 6 つのチームがそれぞれのテーマで活動し、EMS を支え今日まで活動を継続しています。

それでは早速活動内容の紹介に移りたいと思います。まずはじめにグリーンカーテンについてです。

私たちは毎年、図書館横の壁を活用し、西洋アサガオのつるでグリーンカーテンを作成しています。これはグリーンキャンパスチームのメインの活動です。グリーンカーテンの効果としては、壁面温度がマイナス 16 度になり、それにより室内のエアコンの使用頻度が減るといった大きな効果が期待できます。

グリーンカーテンは西洋アサガオの播種、つまりは種の状態から育成しています。播種は 4 月に行い、5 月にアサガオの苗が育ったらネットの設置をし、図書館横にプランターを設置し、その中に育てたアサガオの苗を定植します。また、定植時に使う腐葉土も自分たちで

作っています。このように、グリーンキャンパスチームでは育成を通じたフィールドワークが多く、アクティブに自然と触れ合いながら活動しています。

次に環境活動を通じた地域貢献活動について説明します。

こちらの活動は環境教育チームが主体となって行っています。岩手大学の周辺にある幼稚園などと地域交流を兼ねた環境教育を行っています。

代表的な活動としては、地域の小学生向けに「エコキャンパスツアー」と称して、岩手大学キャンパス内の自然とふれあうことのできるイベントを企画したり、幼稚園の園児たちと自然散策を行うなど、こどもたちとの環境を通じた交流活動が充実しています。子どもたちが楽しみながら環境を学べるように、毎年工夫を重ねた企画を考えています。

さらに、環境を通じた地域連携活動のひとつとして、地元企業と連携した活動をしています。こちらの活動は廃棄物チームと企画チームが中心となって活動しています。

具体的な活動としては、廃棄物チームが小型家電の回収を行っています。この活動は、小型家電に含まれてる金属を回収してリサイクルすることを目的としています。昨年から、回収した金属を使って 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックのメダルをつくるというプロジェクトにも参加しています。学祭で集めた小型家電を連携している企業に送り、貴金属を取り出してもらっています。そしてその取り出した貴金属がメダルの材料なるという仕組みです。昨年度の結果としては、金が 2 グラム、銀が 8 グラム、銅が 1,260 グラム集まり、それらが回収されました。金メダル 1 つにつき 100 グラムが必要なため、私たちが集めた量でも貢献していることが分かります。

次に、企画チームが主催している視察研修です。視察研修では、環境に関する企業や施設などを訪問し、環境について理解を深めることを目的としています。これは自分たちの活動のモチベーションアップに繋がり、さらに、地元企業側も環境への姿勢を見つめ直すことができます。

これらの活動を認めていただき、私たちは毎年様々な賞を受賞しています。

ここ数年では、2015 年に岩手大学の団体奨励賞、2016 年には CAS-Net JAPAN のキャンパスの sustainability に配慮した学生活動・地域連携部門において優秀賞をいただきました。そして 2017 年には、京都大学で開催されたアジア国際環境会議(通称 ACCS)の学生発表部門で優秀賞をいただきました。また、同じく 2017 年には、岩手大学団体奨励賞及び学生奨励賞のダブル受賞をしています。

最後に岩手大学環境学生委員会の今年度の展望について紹介させていただきます。

今年度は当委員会が設立して 10 周年という節目を迎えました。そこで、10 周年を祝した企画として、学生委員会の弱みでもあった地域連携を活性化させる目的で、ハーバリウムの作成による活動を企画しました。この活動では岩手大学の周辺の方と協力し、不要になったビンを回収し、そのビンを活用してハーバリウム製作のワークショップを開きます。これを通じて地域の方と一緒に環境について考える場作りとして、現在準備を進めています。また、当委員会の設立 10 周年を記念して、記念誌の製作を進めています。こちらは実際に委員会が設立してからどのようなことがあったのか、などを冊子におこし、今後の外部連携に役立てていくことを目的とし、委員会内外の更なる活性化をはかっています。

以上で私たち岩手大学環境学生委員会の発表を終わります。有難うございました。

質疑応答

Q. 幼稚園との交流は、幼稚園がある平日の自由時間に来てもらっているのか、それとも休日に行っているのか？

A.幼稚園の先生と相談しながら決めている。今月は平日に子どもたちに来てもらって環境教育をする予定がある。子どもたちが園内にいる時間を狙って一緒に活動している。

Q. 「地域交流」ということが多くあったが、学校外の方と交流するために、具体的にどのように広報をしているのか？

A.ハーバリウム企画の際は、チラシを作って地域の方に配布しビンを回収した。ただ、今年度のビンの回収量が悪かったので来年度にむけて改善したいと思っている。

Q.小型家電回収の範囲と期間は？

A.昨年度は学祭で大学周辺地域から回収。今年度も同様。

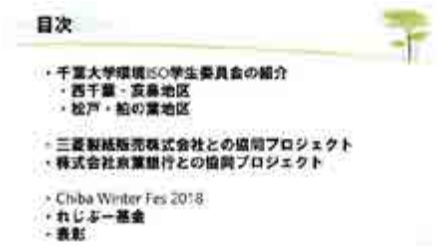
3-2. 千葉大学 環境 ISO 学生委員会

次に、千葉大学　環境 ISO 学生委員会。代表者 3 名による発表。

発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子

千葉大学環境 ISO 学生委員会の活動報告を行いたいと思います。



内容はこのようになっています。

千葉大学は環境マネジメントシステムの国際規格である ISO14001 と、エネルギーマネジメントシステムの国際規格である ISO 50001 を取得しています。当委員会は、環境マネジメントシステムを学生主体で構築・運用しています。

環境 ISO 学生委員会は、西千葉・亥鼻地区と松戸・柏の葉地区に分かれて活動しています。

当委員会は 2003 年に設立され、所属人数は約 170 人となっています。千葉大学では、活動を単位として認定しています。1 年では、座学メインでエネルギーマネジメントシステムに関する授業の他に、仕事の進め方なども学びます。2 年では、ISO の内部監査を行うとともに、これらのことを活かすべく班の運営を行います。そして 3 年では、エネルギーマネジメントシステムを運用している企業や自治体にインターンとして参加したり、委員会の執行部として働きます。このように 1 年から 3 年まで活動した学生は、学内資格である環境エネルギーマネジメント実務士という資格を得られます。

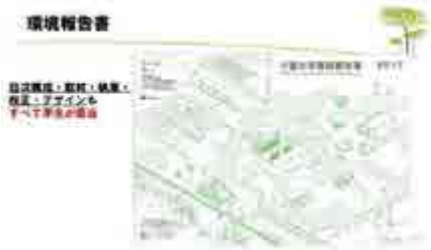
また、当委員会は 2009 年に NPO 法人格を取得しています。エネルギーマネジメントシステムの運用で培ったノウハウを、学内のみにとどまらず地域にも還元することを目的としています。そしてこの NPO の特徴として、理事長及び役員の全てを学生で構成している点が挙げられます。

次に、西千葉・亥鼻地区の学生委員会の紹介です。

西千葉・亥鼻地区では、このように組織で活動しています。約 20 の多くの班に分かれ、班ごとに様々な活動に取り組んでいます。幾つかの班の活動を抜粋して紹介します。

地域の子どもたちに分別ゲームや紙漉きなど、ゲームを通じてゴミの分別のルールや資源のリサイクルを体感してもらうこどもまつり、学内の落ち葉や生ゴミの堆肥化、卒業生からいらなくなった自転車を無償で回収し、修理して、新入生や留学生に販売する自転車譲渡イベントがあります。

古本市では、使い終えた参考書などを回収し学生に格安で販売します。また、学内で大量に廃棄される古紙を有償で業者に回収してもらうことを昨年から開始しました。併せて学生用に古紙回収 BOX を今年から設けました。



千葉大学も環境配慮促進法に基づき、毎年環境報告書を作成しています。作成は私たち環境 ISO 学生委員会が行っています。編集、原案、デザイン全てを学生が担当しています。

次に松戸・柏の葉地区の紹介です。

園芸学部の専門性の高い知識を活用して東日本大震災の復興支援を行っています。今年も雄勝ローズファクトリーガーデンの整備に協力しました。

松戸・柏の葉地区の ISO 委員会は、地域の方と協力して管理している「戸定みんなの庭」をはじめ、ハロウィンイベント、昆虫採集、流しそうめんといった企画も行っています。今年の秋には、キャンパスの近くで行われる防災イベントで環境教育を行うブースを出展します。

次に、三菱製紙販売株式会社様との協同プロジェクトについてお話します。

千葉大学では紙ゴミをミックス古紙、資源回収古紙、可燃ゴミの 3 つで分別を行っています。古紙回収の際に業者から売却金をいただいて、その収入の一部を三菱製紙販売株式会社様とエコグッズなど共同製作するために使用するのが今プロジェクトです。これにより、学生や教職員の環境意識の向上や、古紙回収の利益を学内に還元することを目的としています。

昨年度は、約 100 万円の利益があり、そのうち 50 万円を環境意識啓発品の製作に利用しました。具体的には、こちらのスライドにあるブックカバーを 5,000 部作成し、入学式や学内のイベントで配布しています。また、間伐材を使用したこちらのリングノートも生協で販売しています。どちらも当委員会の学生がデザインしたものです。また、今年度も昨年度同様に本社訪問をし、三菱製紙販売株式会社様と新たな企画を協議しています。

それでは次に、当委員会と千葉県を拠点とする地方銀行である京葉銀行様との協同実施プロジェクトについてお話します。

このプロジェクトの目的は、環境貢献と地域活性化です。また、この協同プロジェクトの 1 つとして京葉銀行様から活動資金の援助をいただいており、今回の全国大会の旅費などに使用させていただいております。さて、この京葉銀行様とのコラボプロジェクトの根幹は、学生発案の 7 つの企画からなっています。2 年目となった今年は、このうちの 4 企画がバージョンアップしました。

バージョンアップする 1 つ目は、企業のための環境ゼミナールです。新たに学生や農業関係者向けにソーラーシェアリング(営業型発電)の見学会を実施予定です。

2 つ目は千産千消フェアです。昨年度の当委員会主催の Chiba Winter Fes でも千葉県内の特産品を販売しましたが、千葉大学構内の銀杏を利用して、新たに銀杏を食材として活用する企画が立ち上がっています。

3 つ目は Chiba クリーンアクションです。館山市沖ノ島の環境保全を目的にアマモの再生事業や海岸清掃活動に協力します。海岸清掃活動は 10 月から実施予定です。

最後にバージョンアップするのは、エコ発信局です。現在も京葉銀行様のホームページに協同プロジェクトに関するサイトがあり、エコに関する豆知識の発信や、最新の活動の情報が掲載されています。このように SNS を用いた発信に加えて、今後は省エネレシピの掲載を予定しています。京葉銀行様と千葉大学はこれらの企画を通し、さらに地域活性と環境に貢献していきます。

次は、Chiba Winter Fes についてお話します。Chiba Winter Fes は今年 2 月に開催された当委員会主催の環境意識啓発イベントです。今回が初開催でした。学生や地域住民、子どもから大人まで、多くの方に興味を持っていただけるよう工夫しました。千葉市やテレビ局を中心に多くの方の協力により開催することができました。このイベントの企画は 3 つに分かれていて、1 つ目は「集客のため企画」、2 つ目は「環境意識啓発のための企画」、3 つ目は「地域活性化のための企画」です。

1 つ目の集客のための企画は、ジャルジャル(お笑い芸人)の番組の公開収録や学内サークルとゆるキャラのコラボレーションなどがあります。

2 つ目の環境意識啓発のための企画は、子ども向けのゲームや出展企業の展示ブース等が挙げられます。屋外ステージの電源はハイブリッド自動車を利用するなど、エコをアピールした舞台となっています。

3 つ目の地域活性化のための企画は、先程紹介した京葉銀行プロジェクトの中の千産千消の特産品の販売が挙げられます。子どもから大人まで 1,500 名が来場しました。開催後は、新聞やテレビなどで報道していただきました。

次は、れじぶー基金についてです。れじぶー基金とは、生協でのレジ袋を有料化することにより生まれたものです。本来生協がレジ袋を購入する代金と、お客さんがレジ袋を購入した場合の資金を学生に還元します。昨年はタンブラーを、一昨年はエコバックを作成して学生に還元しました。

最後に表彰についてお話します。これらの取り組みが評価され、sustainable Campus 賞、Green Gown 賞と千葉市教育文化スポーツ等功労者表彰　環境コミュニケーション大賞を受賞しました。千葉大学では今後も様々な活動を展開していきます。以上で発表を終わります。ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q. どのようにして企業との交流が成されたのか？

A. 三菱製紙販売様との企画は 2015 年度に一度シャーペンを一緒に作る企画あり、そこから発展し、昨年度のブックカバー製作や間伐材ノートの製作へ。京葉銀行様とのプロジェクトは、千葉大学と京葉銀行で連携協定を結んでおり、千葉大学の中で協力できる団体が募集されたときに当委員会が名乗りを上げて始まった。

Q.　企業や地域との連携が多彩だが、その際、交渉においての工夫点や注意点はあるか？

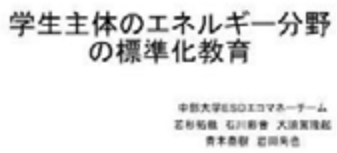
A.基本的であるが、ビジネスマナーは注意した。また、企業との協同プロジェクトの際には、委員会内での意見をしっかりとまとめてから交渉・提案を行った。

3-3. 中部大学　ESD エコマネーチーム

次に中部大学 ESD エコマネーチーム。参加者 2 名による発表。

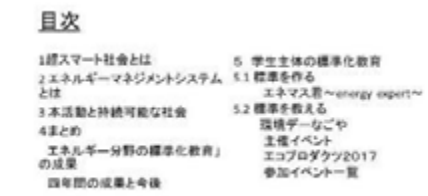
発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子



これより中部大学 ESD エコマネーチームの活動報告を始めます。宜しくお願いします。

まずはじめに、「標準」とは何でしょうか？標準とは国際的なルールです。私たち中部大学 ESD エコマネーチームでは、「標準を使う　作る　教える」の活動を行っています。そして目的として、持続可能な開発を伴う人材になることを目標としています。経営情報学部の学生が中心となりつつ、1 年生から 4 年生まで約 70 名で活動しています。



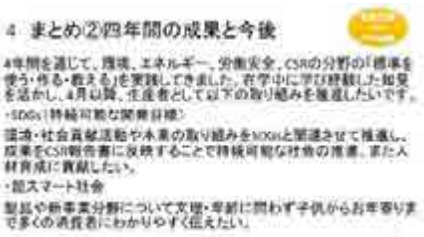
今回は、「エネルギーマネジメントシステム」と「超スマート社会」についてお話します。

超スマート社会とは、必要なモノ、サービスを必要なときに提供し、ニーズに対応し答えていく仕組みです。

そしてエネルギーマネジメントシステムとは、エネルギー方針およびエネルギー目的を確立するために、PDCA サイクルと呼ばれる経営手法を用いてエネルギーの管理を行う仕組みです。

本活動と持続可能な社会に関して説明させていただきます。私達の活動は、SDGs から 3 つの項目、4，9，12 の活動において、「標準を使う　作る　教える」を通じた人材育成が当てはまります。7，11 の項目では、エネルギーマネジメントシステム、超スマート社会を教えるという点において達成できたと考えています。17 では、産学官民連携で経済産業省、日本規格協会、千葉大学、愛知県や日進市の方と連携を行いました。

具体的な活動の説明に入る前に、私たちの行った活動で得た成果について発表します。教材を作るにあたり、エネルギーや超スマート社会の知識を専門家の方々から教えてもらい専門知識を身に付けることができると共に、地域連携で教材を用いたマネジメント規格の発展と普及を行うことができ、それに対し地域貢献を行うことができました。そして最終的には持続可能な社会の担い手になることができたと思っています。



私たちは 4 年間を通じ、環境、エネルギー、労働安全、CSR の分野で「標準を使う・作る・教える」活動をしてきました。この経験を活かし、4 年生は来年から社会人となりますが、SDGs の分野と超スマート社会の分野において社会人として何か貢献できればいいなと思っています。

具体的な内容を説明します。まず、標準を作るという場面で私たちがエネルギーマネジメントで作成したエネルギー教材「エネマス君」について説明します。これは、エネルギーマネジメントシステムとスマートシティに焦点をあてた教材です。この教材は、産業界、子ども、お年寄りまでが楽しみながらエネルギーマネジメントシステムを学ぶ教材を開発することを目的としています。

具体的な内容です。要求事項と呼ばれる項目ですが、こちらは ISO50001 の要求事項をクイズにしたカードです。このカードでは自分が市長となり、国際規格が求める要求事項にどう対応するかを答えていきます。

こちらは標準のブックカードです。ブックカードはスマート技術やエネルギーマネジメントに関連した規格を学ぶことができます。投資カードでは、市長となったときに投資決定を行います。

ハプニングカード、イベントカートでは、市のエネルギー管理でのリスクと機会が表されます。

続いて、「標準を教える」活動について説明します。私たちは教材を作るにあたり、国際規格を作成している専門家である日本規格協会に訪問し、教材を実演し、国際規格の動向を学ぶとともに規格面での改定コメントをいただきました。その他、千葉大学にお邪魔し、ISO50001 を取得している大学ということで、学生に向けて教材を実演し、運用側としての改定コメントをいただきました。また、学生間の活動の意見交換会も実施しました。

続いて、企業向けの主催イベントについて説明します。この主催イベントは、私たちの大学のある愛知県春日井市の周辺地域の企業の方向けに、エネルギーマネジメントシステムと超スマート社会について学んでいただきます。このイベントでは、スマートシティに取り組む豊田市の方と日本規格協会の方に講演を依頼し、最新の動向についてお話いただきました。また、私たちのチームの担当である伊藤准教授による「標準」についての講座も実施しました。そして最後に私たちの教材を実演し、企業の方に教材を体験していただきました。

続いて、一般向けの標準化教室について説明します。私たちは活動を行う上で、名古屋市、愛知県、春日井市等、大学周辺地域の自治体と連携し、このようなイベントに出展させていただきました。ここでは、先程説明した教材を、子どもやお年寄りに分かりやすいか市場テストし、そこで得たコメントを教材改定に活用しました。

最後に、エコプロダクツ 2017 に出展した際の話をします。ここでは小学生以上を対象とした標準化教室を行い、3 日間で 3,322 名の方に教材を実演することができました。

こちらは、昨年度出展したイベントの一覧です。合計で 6,621 名の方に教材を用いた標準化教育を行うことができました。

続いて今年度の活動についてお話します。今年度は、SDGs と超スマート社会を関連づけた教材を作成しています。また、持続可能な調達についての教材も作成しており、今年度のエコプロ 2018 にも出展予定ですので、機会がありましたら私たちのブースに遊びに来て下さい。

私たちは、卒業後も SDGs を推進していきたいと思いますので、今日の大会で良い情報を得れたらいいなと思います。ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q. エネマス君はゲーム？

A.エネマス君は周回型のボードゲーム。市長となってエネルギーマネジメントシステムとスマートシティを構築しながら要求事項のカードを学んだり、ブックカードや投資カード、イベントカードを通して市長としてとエネルギーマネジメントシステムとスマートシティを運用していき、これらを学び、また省エネのようなことについても学んでもらい実生活に活かしてもらう教材。

Q. エコプロ 2018 ではエネマス君もブースで体験できる？

A.今年は新しい教材である SDGs と超スマート社会を関連づけた教材と持続可能な調達についての教材を準備。ただ要望があればエネマス君の教示も送付可能。

3-4. 三重大学　環境 ISO 学生委員会

活動報告第一部の最後は、三重大学　環境 ISO 学生委員会。代表者 1 名による発表。

発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

質疑応答の様子

三重大学環境 ISO 学生委員会の活動紹介をはじめます。

まず三重大学の説明をさせていただきます。三重大学は学生数が 7,300 名、教職員が 1,800 名、5 学部、6 研究科が 1 つのキャンパスに集まった総合大学です。また、全学部同時に ISO14001 を取得しました。

次に、三重大学環境 ISO 学生委員会の紹介に移ります。当委員会は三重大学の ISO14001 を取得キックオフ宣言時(2006 年 2 月)に設立しました。学生の環境マインド向上を活動理念として、教職員の方々と協力しながら活動しています。人数は 1 年生から 4 年生全てを合わせて 59 名です。

年間行事予定はこのようになっています。1 年を通して活動しています。

次に、組織についてお話します。ご覧のような組織図になっています。学内の環境活動や美化活動を担当するグリーンキャンパス部、地域と連携して活動を行う地域連携部、学内外への広報を行っている広報部、これら 3 つの部を統括し、さらに大学とのパイプ役を担っている執行部の大きく 4 つの部で構成されています。

それでは具体的な活動について紹介します。まず、3R 活動として古本市を行っています。これは廃棄物の削減等を目的とし 4 月と 10 月に行っています。まず学内の回収 BOX で学生から本を集め、古本市にて無償で本を譲渡しています。2018 年 4 月の時点では 575 冊を回収し、リユース率が 80%でした。ご覧のように沢山の学生が参加してくれる人気のイベントとなっています。

また、3R 活動として、まわれ!!リユースプラザという活動を行っています。これは 3 月～4 月の卒業、入学の時期に行っており、卒業生から不要になった家具や家電を回収し、それを新入生に無償で譲渡しています。回収した家電の清掃や簡単な点検は学生委員が行い、また新入生に譲渡する際に、希望があれば家まで運搬を行っています。2017 年は一番回収数が多く、161 台回収し、146 台譲渡することができました。この活動は毎年リユース率が 90%を超えています。

こちらも 3R 活動の一環ですが、放置自転車対策も行っています。三重大学は 5 つの学部が 1 つに集まっており、キャンパスの敷地面積が非常に大きいため多くの学生が自転車を利用するのですが、その自転車が放置され、緊急経路の阻害などを招いています。その問題を解決するために、まず整理票を添付して自転車を回収し、回収したうち使えそうな自転車を修理します。そして安全に走行可能な状態で留学生に無償で譲渡しています。

リ・リパックという生協で販売されているお弁当のリサイクル容器の普及活動も行っています。2017 年の活動として、リ・リパックの剥がし方の動画を流したり、回収場所のマップを作成し Twitter に投稿したりしました。

次に、緑化活動の紹介です。学内には多くの木々が植えられており、落ち葉による排水溝の詰まりを招いています。その問題を解決するために落ち葉を堆肥化しています。左の写真は切り返しという作業中で、空気をかき混ぜて微生物の活動を活発化させています。また、こうして完成した堆肥は学内の花壇や緑のカーテンに利用するほか、企業や附属学校に譲渡する活動も行っています。

こちらは環境・情報科学館の屋上の緑化前と緑化後の写真です。緑化後は美しい花を植え、ベンチも設置したため学生の憩いの場となっています。また、訪れた学生が緑化活動を知ることで環境マインドの育成にも繋がると考えています。

次に地域連携活動について紹介します。大きな活動のひとつとして、三重大学の近くにある町屋海岸の清掃活動があります。これは、地域住民によって結成された NPO 法人「町屋百人衆」の方々と当委員会が主催で年 5 回行っています。「素足で走れる町屋海岸」を目指して、地域住民、学生、企業と協力し活動を行っています。

次に環境学習についてお話します。近くの小学校 4 年生児童を対象に環境学習を行っています。これは小学校の授業の時間を借り、その時間に私たちが出向いて活動しています。例えば今年は「3R すごろく」というのを実施し、3R 活動について考えてもらう機会を設けました。

当委員会では、活動内容を学内外に向けて発信するために様々な手段で広報活動を行っています。例えば、学内の掲示板で掲示を行っています。また、当委員会のキャラクターを使った「まもる BOX」箱を設置し、当委員会への意見等を集めています。

その他にも、環境報告書の作成や、Twitter や HP でも広報を行っています。

最後に学内外のイベントについて紹介します。当委員会では学内だけでなく、三重県内のイベントにも多数出展しています。主に子どもたちを対象にして環境に関するゲーム

を実施したり、ペットボトルや牛乳パックなどを利用した工作でリユースについて学んでもらったりしています。また、学内で七夕の時期には、キャンドルを灯し電気を消してライトダウンを楽しもうというライトダウンキャンペーンを行いました。他にも鳥取環境大学さん主催のJUMP に参加するなど、他の学生委員さんとの交流も図っていきたいと思っています。

以上で発表を終わります。ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.緑のカーテンに使用する植物は？

A. ゴーヤを使用。最近収穫し、ゴーヤチャンプルにした。

Q. 放置自転車の譲渡の周期は？

A.夏に整理票を添付し、整理票が外されなかった自転車を回収し、移動。譲渡は前期・後期の 2 回実施。

Q.小学校への環境学習はどのように始まった？どのようにしている？

A.システムはすでにあったため、どのような経緯で始まったのかは把握できない。どんな内容を実施したいかを小学校に提示し交流。

補足：

環境学習を行っている小学校は三重大学の近隣に位置していて最も身近で関係の深い地域環境であることから、2008 年に町屋海岸の不法投棄の問題解決がきっかけで、児童の環境マインドを向上させ、町屋海岸の不法投棄対策をすることを目的として始まった。現在は海岸以外のことについても扱っている。方法としては、どんな内容を実施したいかを小学校に提示し、メールや打ち合わせにて交流している。

Q.環境学習を行う小学校は複数？

A.1 つの学校を対象。

3-5. 大阪大学　環境サークル GECS

休憩を挟み、活動報告第二部のトップバッター、大阪大学　環境環境サークル　GECS。代表者２名による発表。

発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子

こんにちは。大阪大学環境サークル GECS の活動紹介をさせていただきます。遠慮ない質問を最後に宜しくお願いします。

それでは GECS の活動紹介に移らさせていただきます。

GECS は、Gaidai Eco Challenger の頭文字をとって名付けられ、2006 年に大阪外国語大学のゼミの活動が大阪大学に吸収されて現在の形になりました。学生の立場から環境問題の改善に貢献するという理念をもとに活動しています。

サークルの規模

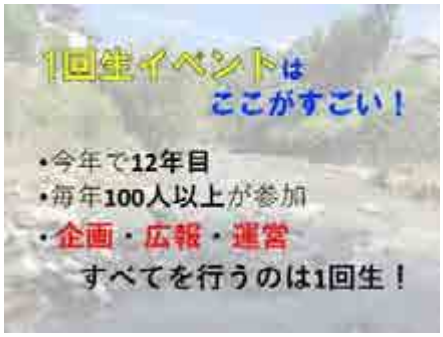
学年	合計	男	女
2回生	39	20	19
1回生	68	41	27
合計	107	61	46

２０１８年０７月３１日現在のデータ。
多くの人数で活動しています。

サークルの規模は、先週３回生が引退してから２回生 39 人、1 回生 68 人、計 107 人の多くのメンバーで活動しています。

では、具体的に GECS は何をしているのか、大きく分けて、全体活動と班活動の 2 つがあります。先に全体活動の紹介をします。まずはここ一年で行なったものとして、「1 回生イベント」と「環境×脱出ゲーム」の 2 つがあります。

まず、1 回生イベントについて説明します。1 回生イベントとは、大学に入学しサークルに入りたての 1 回生たちに GECS とはどのようなものなのかを体感してもらいつつ、同級生や先輩と仲良くなることを目的としています。今年のテーマは「そうだ！清掃やってみのお！」ということで、箕面川を毎年清掃しています。



このイベントの特徴として、今年で 12 年目ということ、大学周辺地域の一般の方併せて、毎年 100 人以上が参加すること、企画から広報、運営に至るまで、すべて主体的に動くのは 1 回生であることが挙げられます。

イベントを円滑に行うために、上記に示す下準備を 2 ヶ月以上前から行います。

こちらはイベント当日の様子です。イベント当日では、メインの川清掃の他に、アイブレ(アイスブレイクの略)、レクリエーションをすることにより子どもたちに楽しんでもらいました。

今年、このイベントを 1 回生として体験し、ミーティングの仕方や渉外など様々なスキルを身につけることができました。そして、なにより１回生同士の絆が深まったこと、これはこれからの活動に向けても良かったと思います。

次に、環境×脱出ゲームについて説明します。

COOL CHOICE
×
脱出ゲーム

環境×脱出ゲームは、昨年の８月に吹田市の千里リサイクルプラザというところで開催しました。地球温暖化を防ぐために「COOL CHOICE」という考えを知り、賢い選択をすることで地球温暖化から脱出しよう！というテーマのもと企画されました。

今回は悪者によって地球温暖化の進んだ未来の地球に閉じ込められるという設定のもと、施設全体を未来の地球とみたて、様々な温暖化に関する実験と謎解きを通して脱出を目指すというイベントを開催しました。
スライドはないのですが、今年の 8 月にも全体企画として「一国の主ゲーム～君は何を守れるのか～」というイベントも開催しました。

続いて GECS のもう一つの活動、班活動について説明します。

GECS には、「花咲かにいさん班」「Sherry 班」「CCC 班」「R 班」「壁面緑化班」「McK 班」「環境教育班」の７つの班があります。それぞれの班の特徴を踏まえつつ紹介していきます。

R 班は、リサイクルの「R」から名前をとり、その由来の通りリサイクルを中心に活動をしています。この写真は、リサイクルプラザという環境施設で、古紙を使って紙細工を作るワークショップの様子です。

R 班は、テスト前に出る計算用紙やいらないお手紙などを回収し、再生する古紙回収と、ワークショップを中心に活動しています。ワークショップでは、先程紹介したもの以外にも、古紙を使って自分だけのノートを作ってみたり、空き瓶から自分だけの置物を作るなどユニークな内容も行っています。

次に壁面緑化班です。壁面緑化班は、その名の通り、壁面を緑化することに命をかけた集団です。

緑のカーテンと、地域交流を通じていろんな人に環境について考えてもらうということを理念に活動しています。

壁面緑化の植物はゴーヤを中心にしており、場所は学内食堂のかさね、萱野保育所、らいとぴあ 21 という 3 つの場所を中心に活動しています。「かさね」の昨年の写真ですが、高さ 3m 幅 10m 程の壁面緑化に成功しました。萱野保育所では、壁面緑化とともに、ゴーヤの切り絵やクイズを行い、楽しみながら子どもたちに環境について学んでもらいました。らいとぴあ 21 は、地域の学童施設であり小学校の帰りなどによく子どもたちが集まる場所です。ここでは、子どもたちがゴーヤの生育に深く関わりたいと思ってもらえるように、ゴーヤクッキングや土作りなどを私たちと一緒になって行ってもらいました。

Sherry 班は share と reuse を掛け合わせたもので、その名の由来の通り、シェア＆リユースを活動の中心にしています。具体的な活動として、GETCHA とフリマというものがあります。GETCHA は、大学の卒業生から大学時代に使っていたが今は使わないといった自転車を回収、修理し、修理費のみを含めた格安の値段で新入生に販売しています。

フリマは、大学周辺の住民からいらなくなった物品を回収し、学祭で販売しています。昨年の学祭では、リピーターの方も現れ、毎年のリユース行事として地域に認知されているようです。

環境教育班は、「子どもたちに楽しく、身近なものから環境への興味を持ってもらう、未来に繋がる環境教育」を軸に活動する班です。

彩都凸凹たんけん隊、出前授業、ぴったんこ隊 mini、単発環境イベントという４つの活動があります。今回は、単発環境イベントに注目していきます。単発環境イベントは年に基本 2 回、GECS 全体で環境教育班を中心に行うイベントです。直近では今年の 7 月に、環境×運動会を開きました。

体を動かし競いながら環境について学べるように工夫したイベントです。一番左の写真は、赤、青、黄の 3 つの箱に様々なゴミの書かれた玉を分けて入れる、分別玉入れ。他にも陣取りと森林破壊、リサイクルと借り物競走、風力発電とリレーなど、楽しさと学びを掛け合わせることができました。

McK 班は、「まちをきれいに」をローマ字読みし適当な文字を合わせた名前で、大学周辺地域のゴミ拾いを行います。

活動は、ハロウィンゴミ拾い、スポーツゴミ拾い、ウィークリーゴミ拾いの 3 つがあります。今回はウィークリーゴミ拾いに注目します。ウィークリーゴミ拾いでは、毎週ゴミ拾いを行い、ゴミの量等をデータ化し、ゴミの多い地域には対策を行うようにしています。過去には、行政に相談し、ゴミの多い場所を埋め立ててゴミの

減少を手助けしたこともあります。

CCC班は、環境活動を新しい切り口からという班で、背景の写真はガンバ大阪のホームスタジアムである吹田スタジアムでの環境啓発運動を主体としています。

その他にも、CCC 班ではオリジナルの環境カードゲームを開発しました。このカードゲームは環境についてよく考えられていて、面白く、訪れる子どもたちを 2，3 時間ワークショップから夢中にさせて離さないようです。

次に、花咲かにいさん班です。花咲かにいさん班は、キャンパスに花を植えるだけの班なのですが、GECS の中で分かりやすく規模の小さく、大学の工学部棟近くが暗いという理由から発足した花を咲かすだけの班です。

写真の様にこれだけ暗かった工学部棟が、花が咲き、色鮮やかになるだけで教授にも「気分が明るくなった」と言っていただけました。

以上 7 つの班が GECS の班活動です。

毎週金曜日 18 時から 20 時まで、全体ミーティングまたは班ミーティングで活動について作戦会議をしています。これをもちまして GECS の活動紹介とさせていただきます。有難うございました。

質疑応答

Q.委員会ではなくサークルとして活動するメリットは？

A. 私たちは真面目というより楽しさ中心。楽しいと環境を組み合わせて子どもたちに知ってもらったり、大人に向けてもスポーツと環境を組み合わせ環境の大切さを伝えることに重きを置いていることが違いと感じる。そして強みであると思う。

Q. 面白い企画を生み出す工夫は？

A.金曜日に全体ミーティングや班ミーティングを実施するが、半分はふざけていたりする。もちろん真面目な話もするが、ふざけた雰囲気の中でこんな企画なら楽しんでもらえるのでは？といったアイディアが出てくる。こういうところが面白さに繋がっていたら嬉しい。

Q. イベントの実験は具体的にどんな内容？

A.脱出ゲーム時の実験は、自転車発電と謎解きを絡めたはず。詳細はわからない。

Q.1 回生イベントでは 1 回生全員 68 人に仕事を割り振るのは大変ではないか？

A.まず 1 回生の中で実行委員を 10 人程度募る。企画の立ち上げ、スローガンを実行委員で考え、広報担当・レクリエーション担当などの班長を実行委員から決定する。班が決まれば残りの全員を割り振り、班長指揮のもと仕事をする。問題が出た際には、実行委員で話し合ったり、みんなで解決する。

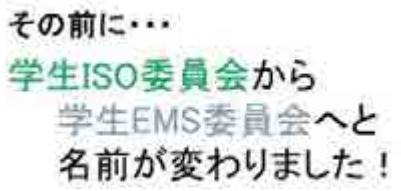
3-6. 公立鳥取環境大学　学生 EMS 委員会

次に、公立鳥取環境大学　学生 EMS 委員会。代表者 1 名による発表。

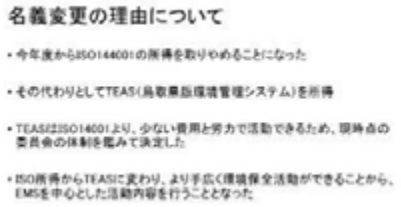
発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子

今から公立鳥取環境大学環境学生　EMS 委員会の活動報告を始めます。



その前に、私たちは昨年まで環境 ISO 学生委員会でしたが、今年から学生　EMS　委員会に名義が変わりました。なぜ名前が変わったのかについてまず説明します。



名義変更の大きな理由として、今年度から ISO14001 を返上した背景があります。そして、その代わりに、鳥取県独自の制度である TEAS の所得を目指して取り組むという方針が決定しました。TEAS は少ない費用と労力で活動できるといった特徴があり、現時点での委員会の体制を考慮しこのように決定しました。ISO から TEAS に変わることにより、より幅広い分野の環境保全活動ができ、EMS を中心とした活動を行うことになるため、名前を学生 EMS 委員会に変更しました。

TEAS とは何かについて簡単に説明します。TEAS は鳥取県独自の制度です。これは、鳥取県内の中小企業などの環境配慮活動への取り組みを容易にするための制度で、鳥取県版環境管理システムの愛称として親しまれています。特徴としては、先程申し上げた少ない費用と労力で登録できること。もう一つは、より環境を良くするための活動を実施することに重きを置いていることです。例えば、「電気の使用量を減らす」「地域の清掃活動に参加する」というような具体的な環境保全活動を重点的に行うという特徴があります。

今年度は学生　EMS　委員会として、このように活動していきたいと考えています。それでは、この中からピックアップして説明します。

まず、環境管理活動説明です。これは、私たちが取得している TEAS について大学内で周知することを目的としており、TEAS　の運営に際し欠かすことができません。大学生は TEAS の運用の構成員であるため、私たち同様に　EMS　について知っておく必要があることから TEAS の運営や TEAS についての知識について広める活動を、パワーポイントを用いた講義形式で行っています。

次に学内一斉清掃です。これは大学内や大学周辺地域を清掃する活動で、大学の美化向上を目指しています。今年から季節に合わせ、ハロウィンでは仮装をして清掃を行なったり、クリスマスではサンタのコスチュームで清掃を行なったりプレゼントを配るといったイベント化も図っています。学生自らが参加すること、またイベント化し楽しい活動にしていくことにより、景観の維持だけでなく、環境改善や学生の社会貢献に対する意識の向上にも繋がります。

続いて学外一斉清掃です。ここでは、鳥取砂丘で行う JUMP、TOYOTA SOCIAL FES!!等で自然(砂丘や池、海岸)の清掃活動を行います。

その中でも私たちが一番中心的に活動しているものとして、JUMP～日本列島を軽くしよう～があります。これは、私たち学生 EMS 委員会が主催し、全国の大学が各地で同時開催し同時刻に清掃するというものです。清掃終了時にゴミ袋を持って 12 時ちょうどにジャンプします。それをすることで日本を軽くしようというイベントです。

今年度は全 9 団体の方に参加していただきました。有難うございました。

次に、今年度の新たな活動として、生ごみコンポストというものを始めました。これは、大学食堂から出た生ゴミを回収し、堆肥化します。生ゴミを再生肥料として利用するため、本来廃棄するものを活用する。さらにこれを農業系サークルに利用してもらうことで有用な活用ができると考えています。コンポストは私たち委員会が管理をし、肥料は農業系サークルに提供し、循環した形で使用していきたいと思っています。

私たちの今後の進展について説明します。まず 3 つの柱があり、EMS の周知、PDCA サイクル、外部の連携に力を入れていきたいと考えています。EMS 周知というのは、環境マネジメントシステムをさらに向上させ、学内のみならず学外の人にも促進できる活動をしていきたいと考えています。具体的には、環境管理説明をもう少し上手く実践したり、発表でのパワーポイントの見せ方の工夫など、委員会内で改善し、さらにポスター作成による普及啓発も考えています。続いて PDCA サイクルですが、PDCA サイクルとは Plan Do Check Act の計画から改善までを行う一連の流れですが、とりわけ私たち委員会では計画と実践はできても、確認と改善が弱い部分があるため、確認と見直しを明確にしたいと思います。そうしていくための活動としては、私たちが今後実践する企画の目的や、企画終了時のアンケート集計の結果をしっかりと委員会内で共有し、PDCA サイクルを円滑に運用することを目指しています。そして最後に外部連携になります。外部連携としては、先程申し上げた JUMP や TOYOTA SOCIAL FES!!を行う際の外部連携強化や、EMS に名前が変わったことも踏まえ、清掃活動だけではなく幅広い環境活動に取り組みたいと考えています。具体的な内容として、今年度から TOYOTA SOCIAL FES!!において鳥取大学さんとイベント企画を連携させていただくこととなり、ここでさらに大学との連携を強化していくこと、先程お伝えした環境活動、清掃以外の部分の企画を通して他団体・他大学と様々な方面から外部との関わりを強化していくこと、このように今後私たち EMS 委員会は活動していきたいと考えています。

ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.JUMP について、どのようにしたら沢山人が集まるか？

A. 私たちは学内にポスターを貼ったりビラを配って掲示板を見ない人にも宣伝する。また、授業前広報というのがあり、大学の講義前に時間をいただき JUMP の宣伝をする。チラシ類には QR コードをつけ、気軽に参加できるようにしている。

Q.砂丘での清掃活動(JAMP)ではどんなゴミが多い？

A. 砂丘ではゴミ拾いではなく除草作業。雑草増加に伴い砂丘の景観維持のために課題である除草を実施。

3-7. 琉球大学　エコロジカル・キャンパス学生委員会

次に、琉球大学　エコロジカル・キャンパス学生委員会。参加者 3 名による発表。

発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子

只今から琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会の発表をはじめさせていただきます。宜しくお願いします。まず活動紹介に入る前に、私たちが着ている服の紹介をします。これは“かりゆしウェア”といい、似ていますがアロハシャツではありません。沖縄県内で生産されたこのようなデザインの服です。かりゆしにはめでたい意味が込められています。市役所や店舗の従業員さんなど、正装として普段から着用しています。

それでは活動紹介に移ります。アウトラインは 1.琉球大学とは？2.エコキャンとは？3.主な活動内容 4.その他の活動内容 5.課題 6.今後の展望です。

まず、琉球大学とは。沖縄にいらっしゃる観光客の方に、沖縄に大学ってあるの？とよく聞かれます。沖縄にも大学はあります。琉球大学は 1950 年に開学しました。国立の大学の中で戦後にできた珍しい大学です。また、沖縄本土の中部に位置し、日本で最も南かつ西にある国立大学です。そして国立大学の中で 4 番目に広いキャンパスを持っています。おそらく今日ここに集まった大学の中では一番広いキャンパスを持っています。また、沖縄県内の様々な地域に大学のフィールドや研究施設があります。文理共にある総合大学です。

私たちは自分たちのことを「エコキャン」といっているのですが、正式な名称は琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会と言います。活動を開始したのは 2012 年 12 月頃からです。以前はエコアクション 21 学生委員会として活動していました。現在は 22 名で活動しています。所属学部は医学部以外の全学部で構成されており、そのおかげで、いろいろなアイディアや知識が得られます。

「学内の環境に配慮した取り組みを知り、身近な環境に対する関心を高めていく。」、「環境問題の多面性を理解し、広視野を持って具体的な行動に移すことができるようになる。」、「快適なキャンパスライフを目指し、学生の主体的で自由な発想に基づいて考え行動する。」これらが活動方針となっています。

主な活動内容として、plogging、エコツアー、エコアート、広報、フォトコン、リ・リパック、レジ袋の 7 つがあります。

まずこの plogging という文字を見たことや聞いたことはありますか？この plogging というのは、2016 年にスウェーデンで発祥し、今年 2018 年から世界中でブームを巻き起こしている新しいゴミ拾いの形態で、身体と環境の健康の両方を保つことを目的としており、ヨーロッパやアメリカで流行しています。

私たちはこの活動を日本初として実施しました。6 月と 7 月の計 2 回、琉球大学構内で行いました。これは走りながらゴミ拾いをするのですが、本気で走るのではなく、ジョギング程度のスピードで走りゴミ拾いをします。参加人数はどちらも 15 人でした。ポイ捨てされたゴミを拾うため、どのような種類のゴミが構内に落ちているのか分かりました。

続いてエコツアーの活動について説明します。活動目的としましては、琉球大学内にある環境に配慮された場所や設備について、エコキャンメンバーがツアーガイドとなり、多くの人に身近な環境への取り組みを伝えるというものです。実際には構内にある太陽光発電施設の見学、千原池と呼んでいる琉球大学構内に流れている川があり、その水をトイレの排水に再利用している仕組みの説明、また浄水するための設備である機械室の見学を行っています。今回は前期に 2 回実施しましたが、理学部とオープンキャンパスで高校生に向けても説明しました。活動成果としては、琉球大学の環境に配慮した取り組みを知らせることができたと思います。

続いて広報の活動内容について説明します。広報の活動内容としては、ポスターのデザインやフリーペーパー、声かけ、資料配付、また SNS を利用した告知を行っています。先程配布した資料に中の ECOOOOOH というものがフリーペーパーです。白黒のものが昨年度作成したフリーペーパーで最近 1 週間程前に新たに作成した ECOOOOOH も本日持ってきました。ここでは、エコキャンについての内容や先生の説明も記載しており、エコキャンがどのような活動をしているのかというのを紹介しています。SNS の利用として、Twitter を使っていますが、1 日 1 回は告知をするようにしています。活動成果として、各々のイベントの詳細についての拡散、エコキャンの活動のアピールをしています。Ploggng やエコツアーの告知を事前に行い、終了後は参加人数等の報告もしています。

続いてエコアートですが、私たちもグリーンカーテンの設置を行っています。グリーンカーテンにはゴーヤを使用していますが、台風の影響で約半数が枯れてしまいました。生き残りも少しあり、写真の様な小さなゴーヤが成長して収穫ができたので今回持ってきました。今回の反省点として、台風対策をしていなかったことが挙げられます。ゴーヤは台風による潮風に影響を受けやすいようで、次回からはネットを張り最小限に被害を抑えられればと思います。

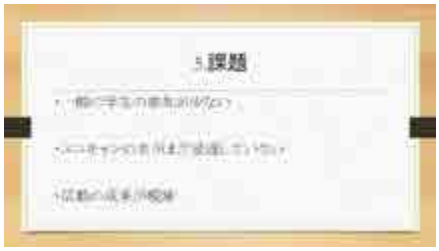
続いてリ・リパックについてです。私たちはエコ活動と地域の課題の解決とを結びつけることを目的としています。リ・リパックの低い回収率を上げることを目標としています。また、琉球大学ではリ・リパックに 10 円分のデポジットが付いており、この 10 円分のデポジットをそのまま構築されると学生生協としては還元できないため、そうなった場合、リ・リパックもリサイクルされず無駄になってしまい、10 円分のデポジットも無駄になってしまいます。この問題をどうすれば良いか考え、この 10 円分のポイントを沖縄県内で活動している NPO 法人メッシュサポートという、県内北部地域や離島地域に医療を届ける活動をしている団体に寄付させていただきました。この活動は今年から始まり、現在ではおおよそ 2 万円分のポイントが集まっています。

続いてフォトコンです。こちらは琉球大学でフォトコンテストを一般学生に向けて実施し、多くの人に琉球大学の魅力を発見してもらうことを目的としています。今年のテーマは「私たちと暮らす SDGs」です。そして、このフォトコンで大賞を取った作品が大学公式のクリアファイルとして新入生全員に配布されています。

こちらが昨年の流大祭フォトコンテストのグランプリと準グランプリ作品です。

次にレジ袋についてです。エコキャンに所属していた留学生が、「日本人はレジ袋を大量に消費しているのではないか」と問題定義してくれました。彼がレジ袋を削減するためにはどうしたら良いのかを考えてくれ、大学内での使用量や日本国内の使用量を熱心に調べてくれました。そしてその活動をエコキャンでやってみようと半年程度行いました。琉球大学では年間約 30 万枚のレジ袋を使用しており、多くはゴミとして大学構内のゴミ箱に捨てられているため、これをどうにか減らせないかと企画していたのですが、残念ながら彼は留学の期間を終え帰国してしまったため、今後この活動を続けるかは課題となっています。

続いてその他の活動について説明します。私たちはエコプロへの出展をしており、その中で活動紹介をしたり、企業や他大学との交流の場を設けています。今年のエコプロ 2018 にも出展が決定しており、昨年は 1 ブースだけでしたが、今年は 2 ブース出展予定ですので、エコプロに参加される方は是非足を運んでいただければと思います。また、HESD フォーラムというイベントにも参加しており、ESD フォーラム「持続可能な開発のための教育」の場での交流を行っています。過去 3 年分を挙げますと、2016 年度は北海道大学にて「高等教育の在り方を SDGs で考える」という内容でした。2017 年度は立命館大学で開催され、SDGs そのものに焦点が当てられていました。そして 2018 年は北九州大学で 10 月中旬に予定されています。「持続可能な社会の在り方について次世代人材の育成を環境の視点から考える」をテーマに私たちも参加します。



私たちエコキャンの課題としては、まず皆さんの話を聞き、人数が多いなと正直感じました。私たちは一般の学生の参加が少なく、どうすれば一般学生の参加が増えるのかというのを考えているので、懇親会等で是非教えていただければと思います。そして、エコキャンの名がまだ浸透していないということがあります。今年から plogging を取り入れて大学内を走っているため、エコキャンというと「あ、走ってるところね」という認知はされてきました。他に、活動成果が曖昧というのがあります。明確化されていないという課題があります。

今後の展望として、エコキャンの拡散が一番に挙げており、体験型の活動を行うのが効果的かなと思っています。例えば、plogging やエコツアーの回数を増やしたり、リ・リパックの剥がす体験を高校生に向け行った際に好評だったので再度実施したりと、このような体験型の活動が良いと思っています。さらに広報による活動報告の徹底も行いたいと思っており、Twitter を毎日更新し、活動を宣伝・報告したいと思っています。また、フリーペーパーも今年度の新刊ができましたので、配布していきたいと思います。

以上で琉球大学の発表を終わります。ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.plogging で集めたゴミの全体量は？特に多かったゴミの種類を減らすための対策は？

A. 一番目立ったゴミはペットボトルで、落ちていた場所は駐車場。駐車場はゴミ箱が遠いのが原因だと考えた。草むらの中に多くあり、捨てた人も隠そうとしているのだと感じた。他に、炊飯器や自転車も捨てられていた。今後の対策として、ゴミ箱を私たちで自作し設置することを検討中。

Q.グリーンカーテンの塩害のがあったが、ゴーヤに代わる植物の候補はある？

A. 琉球大学は丘の上にあり、普段から風が強く台風の影響も大きい。そのためつる植物の生育が難しい立地であり、植える植物の種類よりは管理の仕方が重要だと考えている。ゴーヤは沖縄らしい植物でもあるので、今後もゴーヤを使用する予定。

3-8.1. 信州大学　環境教育海外研修

次に、信州大学で実施している環境教育海外研修について、代表者 1 名による発表。

発表時間：7 分～10 分、質疑応答 5 分

発表の様子

これから環境教育海外研修についての発表をさせていただきます。

信州大学では、毎年、環境教育海外研修を行っています。昨年はスペイン、一昨年はフランスにて研修を行い、今年はアメリカのハワイ島とオアフ島に環境学生委員会のメンバー 4 人で行ってきました。まず最初に、環境教育の目的で特に印象に残った 2 つの施設を紹介し、時間が余れば他の活動も紹介したいと思います。

はじめに、ハワイ州は豊かな環境に恵まれているだけではなく、観光資源を重要な収入源としているため、環境保全に力を入れており、

2045 年に再生可能エネルギー100%を条例として義務づけられたことで有名な場所でもあります。ハワイの環境への取り組みを実際現地に行き、目で見てくることが今回の目的でもあります。また、ハワイ大学にも宿泊させていただいたので、現地の学生との交流を通し、英語学習の習得に繋げられたらなと思いました。

ハワイ州立自然エネルギー研究所(通称：NELHA)という所に行ってきました。こちらはハワイ島にあり、1974 年に設立された海洋温度差発電について研究している施設です。

NELHA の主な特徴として、海洋深層水の利用が挙げられます。海洋深層水とは、地球上を循環している深いところにある水で、表層にある水と比べると 20℃程の差があり、清潔で、天然の電解質を多く含んでいます。NELHA のあるハワイ島のコナ地区は、海岸付近の水深が急激に深くなっているため、海洋深層水の取水に適している場所です。

私たちは施設見学の前に、Hawaii Gateway Energy Center という所に行き、お話を伺ってきました。太陽光パネルが設置されており、ハワイでは日本と比べると多くの太陽光パネルが設置されていて、自然エネルギー・再生可能エネルギーに対する意識が違うのだなと感じました。そしてこの Hawaii Gateway Energy Center の建物の下に海洋深層水のパイプが通してあり、そこに外の温かい空気を通すことで、冷やされた空気が部屋へ充満し、次第に温まっていた空気が天井から逃げていくという仕組みになっていました。この天井は結露しにくい特殊な素材で作られてると聞きました。この写真にあるのが、建物の下に通してあるパイプで、思っ

たよりも大きかったです。

海洋深層水を使った海洋温度差発電 OTEC というものを利用し、発電していました。海洋温度差発電とは、表層の海水と深層の海水との温度差とアンモニアの沸点の低さを利用し発電させるというものです。温かい表層海水でアンモニアを温め蒸発させ、その圧力でタービンを回して発電し、冷たい深層海水で凝縮させてアンモニアを再回収し循環させる仕組みです。しかし、こちらの施設では大量のチタンを使うため非常に高額になり、実用化は難しいと言われています。沖縄の久米島にも似たような施設があると伺いました。

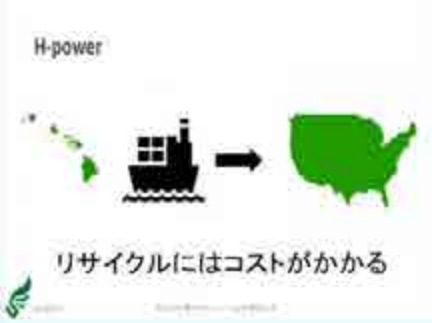
また、NELHA ではハワイモンクアザラシの保護をしています。こちらはハワイで絶滅危惧種になっており、NELHA が確認した 23 頭の 1 頭 1 頭に送信機を付け、所在を管理しているそうです。また、年に 2 回、健康診断と体の掃除を行っているそうです。また、左下の写真は、ハワイモンクアザラシの親子とサメの写真です。地球温暖化により海面上昇が起こり、ハワイモンクアザラシが子育てをする場所が減ってしまっているため、子アザラシが海に出ざるを得ない状況が続いており、そこを狙うサメなどに襲われてしまうということが起こっているようです。

また、農業・養殖への応用を、海洋深層水を用いて行っています。Super Spring Wine Grapes というのは、海洋深層水を利用することで栽培に適した温度に保つことができるため、1 年間に 3 回程栽培ができるということでした。また、ハワイのフェスティバルへ行った際に、海洋深層水を利用したアワビが売られており、とても美味しかったです。

次に、廃棄物処理施設（通称：H-POWER)という施設について紹介します。

H-POWER とは、生ゴミを粉砕し、それを RVF 廃棄物固形燃料というものに変えて、それを燃やし、蒸気でタービンを回して発電するものです。

つまり、H-POWER の特徴として、廃棄物処理をしながら発電ができます。しかし実際に、H-POWER の見学に行ったのですが、分別されていないゴミが非常に多かったです。



なぜあまり分別されていないのかと尋ねたところ、ハワイ州にはリサイクルセンターがなく、リサイクルするためには、アメリカ本土へ輸送しなければならず、そのためリサイクルにはコストがかかり、結果的にエコではないのではないか。燃やせるものは全部燃やしてエネルギーにした方がエコなのではないか。と現地の方はお話しされていました。

実際、これはハワイの観光地近くのゴミ箱ですが、2 つのゴミ箱があり、分別を促しているようにはしていたが、ほとんど分別されていませんでした。これを見て、リサイクルセンターをハワイに作るべきだと思いましたが、まずは分別の心がけや重要性をハワイの方々に根付いていければなと感じました。

残りは他の経験の紹介をします。左上の写真は、ハワイ大学の環境法に関わる先生から現地の原住民とのいざこざに関わる環境活動についてお話を伺いました。右上の写真はハワイ大学のクラブ活動に一緒に参加したときの写真です。左下は、ハワイ大学で環境法やアメリカの環境史を学んだ際、先生の研究室訪問をさせていただいたときの写真です。右下の写真は、弁護士の方との会談の様子で、実際に携わっていらっしゃる環境問題に関わる裁判の事例を伺ってきました。

左上の写真は、ハヴィ風力発電所という場所で、実際に風力発電を見て、低周波や騒音問題を体感してきました。右上の写真は、ハワイの衆議院の方とお話をし、再生可能エネルギー100%は実現可能なのかといった内容を話してきました。左下は、国際的に活躍する弁護士の方と交流した際の写真です。日本人の方でした。右下の写真は、汚水処理施設を見学した際の写真で、日本での汚水処理施設の現状がわからないまま行ったため、少し後悔しています。

最後、左上は、SDGs を研究している先生とその生徒とディスカッションしたときの様子です。右上の写真は、ハワイの伝統的な建物で、左下は、タロイモ畑で実際に農作業を行い、ハワイの歴史と文化について学びました。右下の写真は、ホノルル市役所気候変動持続可能オフィスというところに行き、再生可能エネルギー100%についてのお話や、環境問題についてのお話を伺ってきました。

ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.日本で一番取り入れやすそうな施設は何？

A. SDGs の研究をしている方とお話をした際、The Earth Day という企画(エコプロのようなもの)を行っていると聞いた。このとき、地元企業や現地の子どもたちなどにメールをして様々な人にコンタクトを取ること。これは取り入れることができるかもと感じた。施設については実用化は難しいと思う。

Q.アザラシの健康診断はどのようにする？

A. 浜にいるアザラシの中で怪我をしているアザラシを施設に運び、鎖をほどいたり、海洋深層水で体を洗ったりし、その後海に返すと聞いた。

3-8.2. 信州大学　環境学生委員会(全学)

休憩を挟み、活動報告第三部は信州大学環境学生委員会。まず、全学で取り組む活動について代表者 2 名による発表。

発表時間：5 分、質疑応答 2 分

発表の様子

それではこれから信州大学の発表をさせていただきます。宜しくお願いします。

そもそも、信州大学の環境学生委員会は、たこ足キャンパスのため、キャンパスごとに活動内容が異なります。そのたこ足キャンパスの利点を活かし、それぞれの地域に根付いた活動をしています。1 年生の間は全ての学生が松本キャンパスで学び、2 年次から各キャンパスに移動するため、年に数回行われる全学での活動は貴重な交流の場となっています。「ALL 信大」をモットーに日々精力的に活動しています。こちらがキャンパス一覧です。現在地は繊維学部のある上田市です。

それでは、全キャンパス共通の活動についてお話します。

全国大会事前勉強会についてです。これは 6 月にここ上田キャンパスで開催されました。今回の全国大会が信州大学で開かれるため、全国大会に向けた目標や必要知識の共有や、メンバーの顔合わせを目的に実施されました。

次に全学合宿についてです。先程説明した通り、2 年生以降は様々なキャンパスに委員が散らばっています。各キャンパスの活動報告や委員の交流のために、毎年行われており、今年は 7 月に伊那キャンパスで開催されました。農学部の手良沢山ステーションや演習林の見学、分科会などでキャンパスの垣根を越えて交流を深めました。

続いて全学大会です。今年は松本キャンパスで 11 月に開催予定です。主な内容としてエコプロに向けてのすり合わせがあります。普段は遠く離れたキャンパスにいるため、なかなか意見の統合ができないため、その話し合いを行います。

次に多くの大学が参加されると思いますが、エコプロダクツです。今後の活動の糧にするために参加しています。

3-8.3. 信州大学　松本キャンパス環境学生委員会

引き続き、信州大学　松本キャンパス環境学生委員会代表者 3 名による発表。

発表時間：5 分～7 分、質疑応答 2 分

発表の様子

それでは続いて、松本キャンパス環境学生委員会の発表に移ります。

松本キャンパスではユニットが 3 つあり、そのユニットごとに行う活動と、ユニット関係なく全体で行う活動があります。まず全体での活動についてお話します。

まずはじめに、4 月に行う活動として、新入生全員を対象にエコバックの配布を行っています。エコバックのデザインは、大学構内でデザイン案の募集をかけ、応募された作品の中から私たち委員会メンバーで選びました。

6 月には、キャンドルナイト in MATSUMOTO に参加しました。今年度は、エコネットまつもとさんのお手伝いをしました。これは松本市美術館で行われた活動に私たちがお手伝いとして参加したものです。

次に古紙回収です。これは松本キャンパスの全学部で行っている活動です。学部ごとの古紙回収は各ユニットごとに行っています。

続いてユニット活動の紹介に移ります。

まず、環境教育ユニットです。環境教育ユニットでは、主に外部の方に向けて環境啓発活動を行っています。詳しくは、プログラム冊子の説明をご覧下さい。まず、水質調査を毎年 6 月に新歓と身近な川の水質調査をすることで環境活動への足がかりをつくる目的で行っています。

そして 8 月に、これは初めて実施しましたが、信州大学理学部で開かれる「自然のひらめき」というイベントに参加しました。これは、未来の信大生への環境教育ということで、理学部に見学に来て下さった小学生や中学生を対象に環境啓発活動を行いました。プラレールに乗る大きさのゴミを電車に乗せ、ゴミ集積場に見立てた駅にゴミを正しく運ぶという電車を用いたゴミ分別ゲームを実施しました。右の写真は、体験してもらった際の感想を書くノートです。5 ページ分ほど集まったので、結構な人数に体験させることができたと感じました。

次に環境安曇野フェアです。安曇野市というところが松本市の隣にあり、安曇野市役所の方と打ち合わせをし、行っている活動です。エコプロの小規模バージョンのイベントだと思って下さい。10 月に開催されますが、ここでも電車を用いたゴミ分別ゲームを実施する予定です。

続いてびかーるユニットです。びかーるユニットは美化活動の“びか”とリサイクルの“r”を掛け合わせており、今年から活動しています。美化ユニットの活動を引継ぎ、大学近郊を流れる女鳥羽川のゴミ拾いを行っています。

次に不要食器回収です。これは松本市内の公民館で行っているイベントです。食器を一般の家庭から集め、キレイで使える物は引き取っていただき、もう使用ができないだろうと判断された物は細かく砕き、新たな食器としてリサイクルしています。

そして 2 月に行われるリサイクル市です。これは信州大学の食堂で毎年行われています。この活動も、地域の方から不要となった物を集め、リサイクルの促進を行っています。

続いてバガスモールドユニットの活動について紹介します。まずユニットでは、バガスモールドという、サトウキビの絞りかすから作られた容器を土に還すという活動をしています。この活動では、農家さんの土地をお借りしています。写真は作業の様子です。

このように容器を細かくちぎり、土と一緒にかき混ぜていきます。

また、土地を貸して下さった農家さんへのお礼として、農家さんのブドウ畑のかさかけのお手伝いをしました。ブドウ畑の背が低いところは腰を屈めての作業になるため、大変な作業でした。

また、グリーンカーテンの作成も行っており、今年の 5 月頃にゴーヤとアサガオの苗を植え、少しずつですが成長しています。

今後は、大学祭のリサイクルバザーで堆肥化した土を配布する予定です。また、その土を用いた野菜作りも考えています。

ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.バガスモールドの写真の白いものはプラスチック？

A. 白いもの細かくしたバガスモールド容器。右の写真が現在の最新の状態で、ほぼバガスモールド容器は分解された。

3-8.4. 信州大学　工学部環境学生委員会

次に、信州大学　工学部環境学生委員会。代表者 1 名による発表。

発表時間：5 分～7 分、質疑応答 2 分

発表の様子

信州大学工学部環境学生委員会の発表を始めます。

内容にあるエコプロは間違いなので気にしないで下さい。工学部では、1 年を通した活動と年に一度のイベントの活動をしています。

まず、イベントについて発表します。

まず、森フェスです。

森フェスとは、6 月末に上田市の菅平高原で行われるイベントです。

今年の展示内容は、ネイチャースタンプのワークショップを行いました。対象は小学生で、ワークショップを通じて自然に触れる体験をしてもらうことを目的としています。

次に JUMP です。

JUMP は先程発表もありましたが、鳥取環境大学さん主催のイベントで、今年も参加させていただきました。

今年は工学部以外の学生さんと一緒に参加したことが良かったと思います。これが実際にジャンプしたときの写真です。

次に信州中野環境祭です。

松本キャンパスでの安曇野環境フェアと同じで、小規模なエコプロのようなイベントです。今月 9 月末に開催されます。

昨年は、環境問題に関するゲームの展示を行い、沢山の小学生に楽しんでいただきました。

次に班活動について紹介します。

委員はそれぞれどれかの班に属し、通年を通して活動を行います。大きく 4 つ、ゴミ箱班、グリーンカーテン班、みんなの本棚班、水質調査班に分かれて活動を行っています。

まず、ゴミ箱班です。分別率向上のため、ポスターやゴミ箱の装飾を考えています。また、定期的にリ・リパックを回収し、生協の方にお渡しするお手伝いをしています。

これが実際のゴミ分別促進ポスターです。

次に、グリーンカーテン班です。グリーンカーテン班では、夏場の冷房の稼働を抑えるため、植物を育てグリーンカーテンの設置を行います。図書館の南側に設置しています。目に見える環境活動ということで、学生の環境意識向上に貢献できればなと思っています。

次に、みんなの本棚班です。松本キャンパスでも行われていますが、図書館に設置されている本のリユースを目的とした本棚です。私たちは、回収された本をジャンル別に分けるお手伝いをしています。

これは実際に本の管理をしているときの様子です。

最後に、水質調査班です。信州水環境マップネットワークさんから依頼を受け、そのお手伝いをしています。目的として、普段関わりのない水環境を自分たちの手で測ることによる意識の向上を狙いとしています。今年は犀川という川で行いました。

ご清聴有難うございました。

3-8.5. 信州大学　農学部環境学生委員会

次に、信州大学　農学部環境学生委員会。代表者 1 名による発表。
発表時間：5 分～7 分、質疑応答 2 分

発表の様子

農学部の発表をはじめさせていただきます。宜しくお願いします。大会プログラム冊子をお持ちの方は 18 ページをご覧下さい。こちらに農学部の活動について非常に詳しく掲載されていますので、今回はここに載っていないことを中心にご説明したいと思います。写真だらけのスライドになっていますので気軽に聞いていただければと思います。まず、この表紙ですが、これは農学部の正門にあたる場所です。見た感じでは「ただの森」だと皆さん思われると思いますが、農学部はキャンパスの周りがすべて演習林となっており、非常に大量の木が植わっています。どれほど大量かと言いますと、農学部の演習林が 1 年で行う光合成での CO_2 吸収量で、農学部が 1 年間に出す CO_2 を全て吸収してしまう程の大量の木があります。それに伴い、動物も沢山います。朝にドバトが鳴いたり、授業中でもアカゲラというキツツキの仲間が木をあちこちでつついていたり、よく見かける動物は狐、鹿、狸、イノシシや希に熊が出た時もあり、校内放送で警告が出されることもありました。

それでは次にいきましょう。まず農学部は伊那という地域にありますが、簡単に説明します。ここ上田は長野県東部に位置するのですが、伊那は長野県南部に位置するエリアです。飯田という地域の上にあります。赤石山脈と木曽山脈という 2 つの山脈が両サイドにあり、日本でも有数の険しい山脈の間に挟まれているためとても交通は不便です。私たちの大学は、その中でも伊那の南箕輪村という場所にあります。全国の国立大学では、恐らく唯一と言っていい、村に存在する大学です。村のため人口も少なく、1 万 5 千人。上田が 10 万人ほどの人口なのでここの 10 分の 1 程度と規模だと思って下さい。一言で言ってしまうと田舎ですが、田舎だからこそのメリットもあり、地域社会の繋がりが健在です。都会ではなくなってしまったような地域の繋がりや人と人との繋がりといったものが非常に濃く残っています。主な交通手段は飯田線という秘境駅の多い電車です。そのようなところですので、私たち委員会の特徴として、自然や地域に密着した活動が多いことが挙げられます。ここからは、私たちが行っている主な活動について説明します。

最初は、朝マルシェと呼ばれる活動です。

これは伊那市商店街の皆さんが、朝店を出して行うもので、

私たち委員会は、ここで間伐材の木を使ったマイ箸作りのお店を出しています。間伐材というのは、木を間引く際にできる木材で通常は捨てられてしまうものですが、これを利用することで間伐材が使える物であったり、間伐材をみんなで有効活用ができるということを多くの人に知ってもらうということが特徴です。

こちらが特殊な機械を使い間伐材を削ってお箸を作っている様子です。

次に、キャンドルナイトです。

キャンドルナイトは、このようにキャンドルをあちこちに焚き、その中で様々なサークルの方に出し物をしていただいたり、ジビエという鹿やイノシシの料理を提供し、皆さんに楽しんでもらうイベントです。

こちらの写真は、信州大学の他のサークルの演奏の様子です。このように多くのサークルに参加してもらっています。

次に、ミヤマシジミの保護活動です。

ミヤマシジミというのは蝶の一種で、非常に変わった特性を持っています。絶滅危惧種に指定されており、幼虫はコマツナギと呼ばれるマメ科の植物しか食べないという変わった習性があります。私たちはこのミヤマシジミの観察活動や保護活動を行っています。

こちらはミヤマシジミ観察会の様子ですが、観察会を行うことで、多くの人々に生物多様性がどのようなものか、また、ミヤマシジミという生き物がどのようなものかということを知っていただくことを目的としています。

以上になります。ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.マイ箸づくりで使う間伐材はどのように調達する？

A. 農学部はキャンパス以外に各地に演習林を保有。そこで農学部森林コースの学生が演習林を伐採する実習がある。そこで切った木は使えないため放置される。その木がもったいないため下ろしてきて技術職員の方に切っていただき、それを使用する。

3-8.6. 信州大学　繊維学部環境学生委員会

活動報告のラストは、今大会の運営の中心である信州大学　繊維学部環境学生委員会。代表者 1 名による発表。

発表時間：5 分～7 分、質疑応答 2 分

発表の様子

これから繊維学部の活動報告をさせていただきます。宜しくお願いします。繊維学部環境学生委員会は、2 年生 12 名、3 年生 11 名で構成されています。

まず、クリーン大作戦という活動について紹介します。これは年に 4 回行う地域清掃活動で、地域の方や他のサークルの方と一緒に清掃を行っています。この活動の目的として、地域交流と上田の街を知ることとしています。クリーン大作戦！ですが、事前準備として、下見やルート確保を行ったり、広告を作成し、開催する地域の自治会長さんに渡しています。また、当日アンケート調査も行うため、その用意もします。

こちらが実際の広告です。宣伝方法ですが、チラシを構内に掲示して学生の参加呼びかけを行っています。地域の方へは回覧板に広告を入れて宣伝しています。そのため、自治会長さんを通じてご協力いただいています。

次に、R18 ごみゼロ運動という活動に参加しています。R18 というのは国道 18 号線のことで、この国道 18 号線沿いを清掃します。この運動は、ごみゼロの日に合わせ、5 月 30 日付近に行います。この活動は、国道 18 号線沿いにある企業や団体が一斉に参加する清掃活動のため、ごみゼロの日に近い金曜日等に開催されます。この活動の目的としては、一斉に多くの参加者が清掃活動をすることで大きな清掃効果が期待できること、そして話題性があることが挙げられます。

次に、野菜・綿花栽培を行っています。まず、上田キャンパスの農場から私たちに、一部畑を貸していただいたり、植物工場を使用させていただいたり、そこで野菜栽培を行っています。また、講義棟前のプランターで綿花を栽培しています。よかったら見に行ってみて下さい。この畑の写真を見て、奥の部分が草生えているなと思ったかもしれませんが、私たちもそれを思い、2 年生企画として、この雑草の生えている部分を耕し畑の拡張を行いました。

ここで栽培した野菜は自分たちでも食べますが、近くにある児童館に持って行き、調理していただいて、子どもたちと一緒に食べるということもしています。

次に太陽光パネルの管理を行っています。構内にある太陽光パネルは地面の上にあり、雑草が伸び背が高くなると発電量が低下してしまうため、それを防ぐために私たちで除草をすることもありますが、強力な助っ人として、夏場は附属農場から羊に来てもらい、雑草を食べたり踏んだりして協力してもらっています。その際、私たちは羊のお世話をします。水と餌の補充を毎日行っています。キャンパスツアーで見ることができますので楽しみにしていて下さい。

最後に、今後予定している活動の施設見学について少し紹介します。10 月 7 日、8 日に 1 泊 2 日で実施するのですが、今年度の訪問先は、栃木県の足尾銅山と日光東照宮です。足尾銅山では、産業廃棄物処理の大切さを学びに、そして日光東照宮では、足尾銅山で作られた銅がどのように使用されてきたのかを見に行く予定です。楽しみにしています。

以上で発表を終わります。ご清聴有難うございました。

質疑応答

Q.クリーン大作戦！時の回覧板での宣伝効果はどのくらい？

A. ビラを回覧板で挟み広報する他に、公共施設へのポスター掲示も行い、地域の方の参加を促している。そのため回覧板での効果は計れない。しかし、回覧板での宣伝は、該当地域のすべての皆様に情報が行き渡るため、ポスターより良い影響があると感じる。

4. 基調講演

4. 基調講演

2 日目の初めのイベントであった基調講演では、長野県内の環境活動に深く関わりのある、中島恵理副知事とNPO 法人上田市民エネルギー藤川まゆみ理事長にご登壇いただきました。

長野県副知事　中島恵理氏

「SDGs に関する長野県の取り組み」

まずはじめに、中島恵理氏によるご講演がありました。全国に先駆けて「SDGs 未来都市」に選ばれた長野県が取り組む、信州の自然や社会・経済・環境面の課題に対する政策等についてご紹介いただきました。

NPO 法人上田市民エネルギー理事長　藤川まゆみ氏

「エネルギー革命、すべての人がプレイヤーに」

次に藤川まゆみ氏によるご講演がありました。信州大学上田キャンパスにも発電所を設置している太陽光パネル相乗りくん事業の、太陽光パネルの設置に土地や屋根を提供する側と、その設置費用を提供する出資者をつなぐ取り組みについてご説明いただきました。

質疑応答も活発に行われました。

5. キャンパスツアー

5. キャンパスツアー

資料館

疾走するファイバー展

太陽光パネル

講堂

植物工場

桑畑

5. キャンパスツアー

資料館：繊維学部は 100 年以上の歴史があり、前身である上田蚕糸専門学校時代の歴史についてのパネル、当時蚕をふ化させるために実際に使用されていた機械の模型、紡績機に関するパネルなど、貴重な資料が多く残る施設です。ここでは繊維学部の起源についての良い紹介ができました。

疾走するファイバー展：高機能繊維製品をはじめ様々な繊維や繊維製品を展示しています。環境面では、限られた資源を再利用し循環型社会を目指すことが繊維工学分野にも必要です。繊維実験の説明や、展示ブースにあるパネルや体験スペースを通じて、“繊維“に焦点をあて紹介することができました。

太陽光パネル：基調講演の内容にもあった太陽光パネルの相乗り事業について紹介しました。また、当大会に合わせ、普段は夏場にしかいない羊も附属農場から呼んでいました。羊が草を食べたり、踏んだりすることで発電効率を上げることを目的としています。

桑畑・綿花畑：桑園には約 480 品種の桑があり、綿花畑では 32 品種の綿花を育てています。桑園の桑は蚕のエサとなり、桑園で刈った枝は腐葉土に変わり、再利用されます。ビニールハウスではクヌギを育てています。農場全体と周辺設備について紹介し、また、収穫された桑の実で作られる桑の実ジャムを分科会の「もぐもぐタイム」にて振る舞いました。

植物工場：植物にとってどのような人工的栽培条件が適しているのかを調べる栽培施設を備えた研究施設です。繊維 ESC では、はつか大根やリーフレタスをはじめとした 6 種類の野菜を栽培しました。天災の心配や虫害もなく、屋外よりもストレスなく栽培することができます。栽培した野菜の試食も併せて実施しました。 味もばっちりだったと思います。

講堂：上田蚕糸専門学校設立から 20 年後、昭和 4 年(1929 年)に建築され講堂として利用されてきた建物です。長野県全体や上田市では紡績業や養蚕業が盛んであったという歴史の紹介をしつつ、当時の人々の身長に合わせた低い位置のドアノブ、柱などに施されている繭・蛾・桑の彫刻を見ることで長い歴史を実感してもらうことができました。

5. キャンパスツアー

各スポットでの説明は、繊維学部２年生がそれぞれ担当し、事前に紹介パネルや展示物、クイズを考え準備してきました。各スポットでのクイズの正答率が高かったグループには、やる気をもってキャンパスツアーに参加してくれた熱意に感謝し、信大特製エコバックを贈呈しました。このエコバックは、松本キャンパスESCが信州大学全学部の新１年生に配布しているものと同じものです。

クイズの様子

各グループの先導は、松本キャンパス ESC の 1 年生が担当しました。今大会では信州大学全参加者でのリハーサルができなかったため、２日目早朝に現地ルートの確認を行うというハードスケジュールでした。繊維学部以外の学生にとっては知らない土地での案内です…多少の混乱はありましたが、重役を果たしてくれました。お疲れ様でした。

先導の様子

参加学生は５グループに分かれ、６つのスポットを見学しました。主催校のキャンパスを実際に見て回る。これは毎年主催校が入れ替わる当大会の醍醐味と言えるでしょう。今回はスポット数が多かったため時間が押しましたが、どうしても紹介したかったので欲張ってしまいました…楽しかったと好評で何よりです。

6. 分科会

6. 分科会

今大会もいよいよ終盤に。ラストは参加学生同士の熱い討論の場、分科会です。

分科会テーマの説明

分科会の担当は信州大学工学部 ESC。大会テーマをもとに SDGs に関連した 5 つの分科会テーマを設定。グループ分けは、大会参加申し込みフォームに記入していただいた興味のある分科会テーマの希望を考慮し、様々な大学の参加者が混ざるように振り分けました。

分科会は 1 チーム 5，6 人の構成。全 12 グループが与えられたテーマに対し、それぞれ議論し合いました。信州大学のメンバーがファシリテーターを担当し、さらにグループごとにメンバーの役割を決めグループワークを行いました。模造紙・付箋を用いたグループワークの後、各グループの結果を発表し共有しました。発表はパワーポイントを用いたスライド発表形式で行いました。

グループワークの様子

発表前の休憩では『もぐもぐタイム』を設け、繊維学部の桑の実ジャムをクラッカーにのせ振る舞いました。糖分補給のおかげで体力も回復し、もぐもぐタイムは大好評でした。

6. 分科会

4．30 代～40 代の大人に対する質の高い環境教育を実施するには

SDG s における一貫した重要な要素は「だれも取り残さない」という目標です。環境教育を受けてから時間の経った大人や、環境教育を受ける機会の無かった一部の大人たちは環境意識の差が見過ごせません。「4.質の高い教育をみんなに」を念頭に、多くの人へ質の高い環境教育を届けるにはどうしたらよいのでしょうか？

7．省エネを進めるためには

地球温暖化、資源の枯渇…。今の生活を保ちつつ、未来へと持続的な開発を行うには省エネの実現が急務です。製品開発や発電などの巨視的な視点に限定せず、学生レベルで行える省エネ推進の活動はどのようなモノが考えられるでしょうか？またそれらを持続的に行うのはどのような工夫が考えられるでしょうか？

11．住み続けられるまちづくりをするためには

SDGs の取り組みの一つとして、将来にわたって誰もが安心して住み続けたいと思えるまちづくりをすることを目標としています。子供のいる家族、夫婦、一人暮らしの大学生やサラリーマン、おじいさんおばあさんなど、様々な人が共生してまちは構成されています。また、公共の設備（橋、道路、公園、商店街等）を利用して生活しています。まちの人々が安心して過ごしやすい環境をつくるために、私たち大学生はどのように貢献できるでしょうか？

13．気候変動に対する対策をしっかりするためには

今年も命の危険を感じるほどの猛暑が続き、台風やゲリラ豪雨による被害も年々深刻化しています。7 月の西日本豪雨ではハザードマップが制定されていたにもかかわらず、その認知度の低さなどから被害の大きさが深刻化しました。学生サイドからこれらの問題に対してどのような角度からアプローチが出来るでしょうか。また、地域の防災拠点としての大学はどのような活動が望まれているでしょうか？

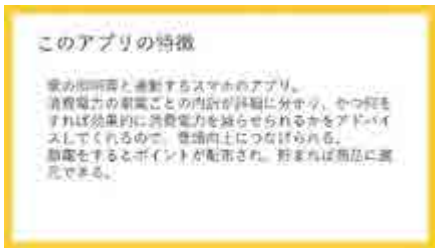
14,15．海、陸の豊かさを守るためには

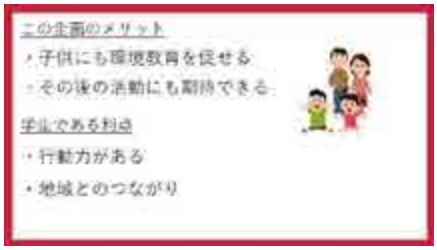
生物多様性の保全は人間と言う種に限らない地球全体の命題です。特に昨今では水質・大気汚染や、森林伐採、外来種の流入などによる生態系の破壊が深刻化しています。このような地球規模の問題に対し、私たちはどのような対策が出来るでしょうか？

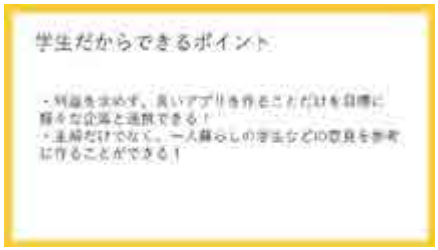
発表の様子

発表の様子

発表の様子



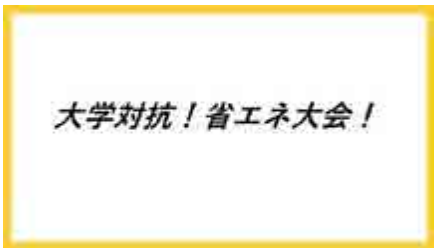


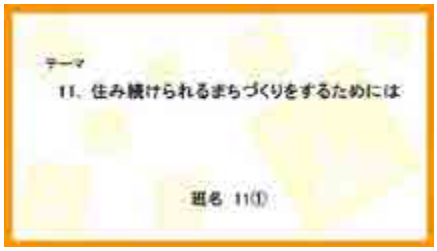


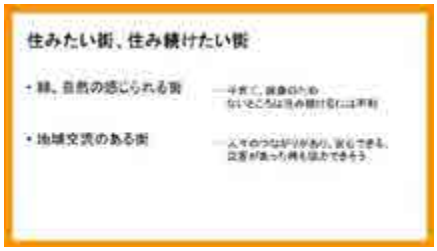
発表の様子

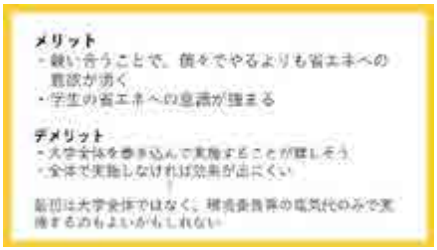
発表の様子

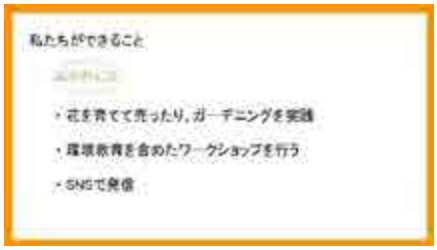
発表の様子

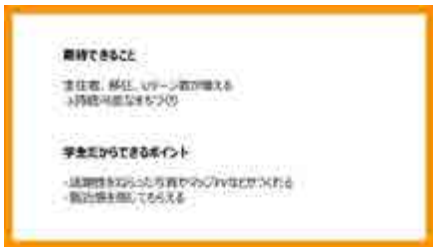






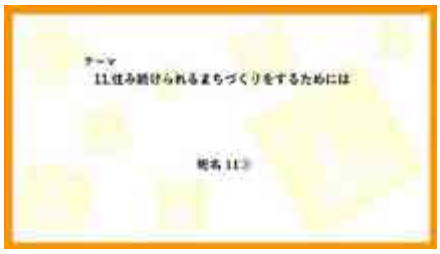




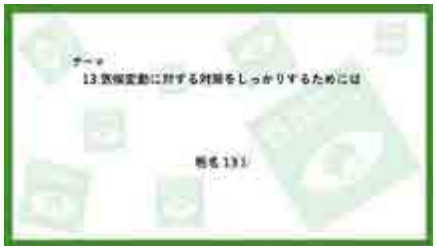


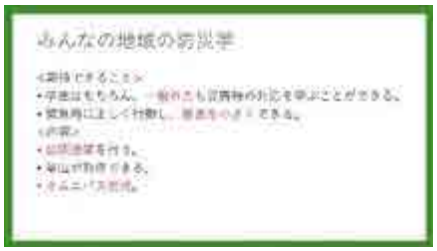
発表の様子

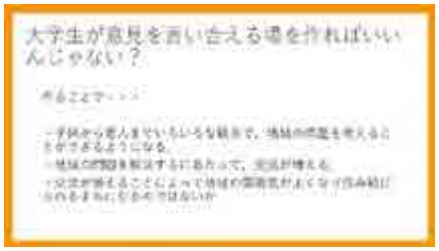
発表の様子

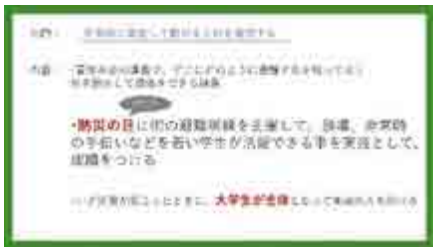


発表の様子





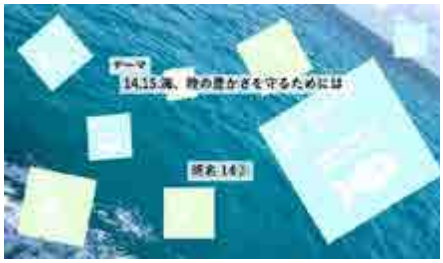


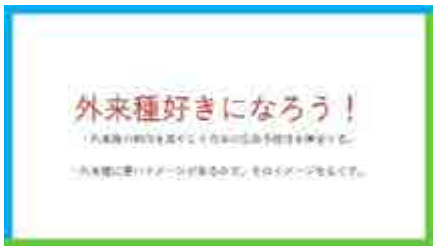


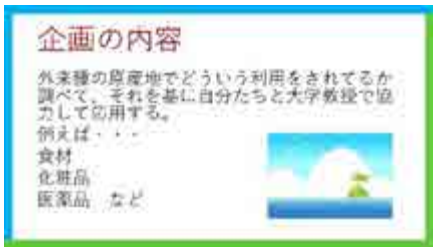
発表の様子

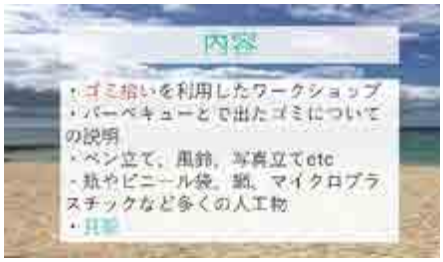
発表の様子

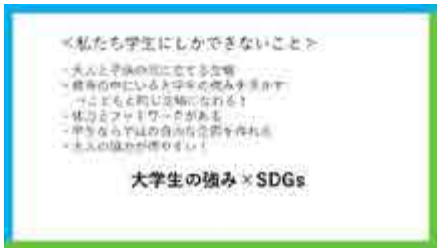
発表の様子











7. 大会ゴール企画

7 大会ゴール企画

ゴール：僕らが始める SDGs

～2030 年を変えるために、さっそく一歩踏み出そう～
SDGs(Sustainable Development Goals)の 17 の目標の幾つかと結びつけながら、全国大会を得た知識をもとに、あるいは得た仲間と共に Action を起こす。

岩手大学

環境教育チームが主体となり地域交流を兼ねて子どもたちへの環境教育を行いました。

千葉大学

「千葉大学×京葉銀行 eco プロジェクト」の一環【Chiba クリーンアクション】で NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団の主催する「国際海岸クリーンアップ～沖ノ島～」に参加し、千葉県館山市の沖ノ島海水浴場にて清掃活動を行いました。

「沖ノ島に捨てられたゴミは島を汚すだけでなく、海を渡り他の海岸まで汚していることを知り、1 つの海岸を綺麗にすることが他の海岸のゴミを減らすことにも繋がると感じました。今後も様々な清掃活動を行っていきたいです。

公立鳥取環境大学

新日本海新聞社様が共催する「TOYOTA SOCIAL FES!!」のイベントを開催し、鳥取県の湖山池で清掃活動を行いました。今年度は、「湖山池青島スタンプラリー清掃」と題し、湖山池青島周辺の清掃活動及びスタンプラリーを実施しました。企画の内容としては、ごみの重量 0.1kg＝1 ポイント、スタンプ 1 個＝1 ポイントで換算し、チームごとの合計で競うという形式で行われました。今年度は、160 人を超える参加者が集まり、清掃を通して地域とのつながりを持つ良い機会となりました。

今回の清掃イベントでは、鳥取大学との合同企画が実現し、今年度の目標であった外部との連携強化を実践することができました。これを契機に今後とも他大学と繋がっていけたらと思います！

琉球大学

手作りのゴミ箱を作成し、琉大祭で展示しました。祭りということもありゴミも多く集まりました。

信州大学　松本キャンパス

「安曇野環境フェア」に両日合わせて 11 人の学生が参加しました。電車のおもちゃを使って安曇野市のゴミの分別について来場者の方に知っていただくことを目的とした企画を実施しました。また、空いている時間を使って他の企画者団体のブースを見学することができました。そこで、たくさんの人々が環境について考えていることに驚かされるとともに、それぞれの団体が信念を持ち真剣に環境活動に取り組んでいることを受け自分たちのこれからの活動に対して良い刺激を得ることができました。

具体的には、電車のおもちゃが運んでくるゴミを正しい分別場所となった駅までたどり着かせるというもので、楽しみながら学べる企画でした。当日は小さなお子様を連れたご家族が多くいらっしゃいました。今回の企画は小さなお子様向けの内容となっていましたが、大人の方にも日々のゴミの分別について今一度考えていただけたように感じます。ゴミの分別は日々の生活の中で簡単に環境問題に関わることができる手段であると私たちは考えています。今回のイベントを通して多くの方にそのことを感じていただける良い機会になったと考えています。

信州大学　繊維学部

①うえだ環境フェアにて「発電する力を体感しよう！」という太陽光発電 vs 自転車発電のブースを展開し、イベントに訪れた子どもたちに電力の大切さを伝えました。N ゲージ模型と自転車をつなぎ、負荷のかかった自転車を漕いで新幹線を走らせて発電の大変さを実感してもらいました。

また、全国大会実施報告ポスターを作成し展示しました。

②軍手ィをつけて　クリーン大作戦！

大会記念品の“軍手ィ”をつけて大学周辺地域のゴミ拾いを行いました。また、軍手ィを製作している信州大学繊維学部の学生団体ハナサカ軍手ィプロジェクトのメンバー、地域住民の方に参加いただきました。

大阪大学

今年の壁面緑化を地域の方と協力して、片付けました。

今後、環境マネジメント全国学生大会の経験を踏まえて新しいイベントを作っていきます。現在は一般の方に SDGs について広めるゲーム・子供たちが自分たちのまちづくりを考えさせるような環境教育を企画しています。今後とも活動に尽力していきます。

三重大学

ハロウィンごみ拾いとして仮装して構内のごみを拾いました。

他大学さんに刺激を受けて、当委員会として初めてハロウィンごみ拾いをしました。今回は構内のみの実施でしたが、学外での実施も検討したいです。

信州大学　農学部

伊那市ミドリナ委員会主催のイベント『森　JOY』でヒノキの間伐材を用いたマイ箸作りを行ってきました。約 30 名の方にマイ箸作りを楽しんでもらえました。

信州大学　工学部

SDGs の達成目標 15 である陸の豊かさを守る活動の一環として、若里公園の清掃を行いました。若里公園は子供連れの方やイベントでよく利用されるため、ゴミが発生する機会も多いだろうと考え今回の活動の場所として選びました。しかし、想定していたよりも廃棄されたゴミは少なく、長野市の環境団体や地域の人たちの日々の清掃活動によって若里公園の環境が守られているということが感じられました。私たちも長野市の環境を守る一員として継続して活動を行っていきたいと思います。

☆大会ゴール企画にご協力くださりありがとうございました☆

8. 大会関連情報

8-1. 事前準備・当日運営の様子

繊維学部を中心とし、信州大学環境学生委員で準備・運営を行った。(直前準備および 1 日目、2 日目の様子。)

8-2. 聴講生募集ポスター

特別聴講制度を設け、長野県内大学にポスターを設置し学生へ参加募集を呼びかけた。開催時期が夏休みであること、ポスター掲示が８月下旬からと遅めであったことで今回は良い成果が得られなかった。

8-3. 信州大学関連団体情報

大会記念品のパッケージには信州大学の関連団体の情報を記載し、軍手ィは信州大学繊維学部のかつての環境学生委員が考案した gomily 一家を中心デザイン。(gomily 一家は繊維学部講義棟のゴミ箱に描かれているキャラクター。)

ハナサカ軍手ィプロジェクト

大会 HP

信州大学環境学生委員会

8-4. 取材結果

大会 2 日目の分科会の様子を信濃毎日新聞さん、信州民報新聞さんに取材いただいた。取材対応は主に広報担当の 2 名が行い、参加学生へのインタビューも行われた。今回は信州大学松本キャンパスにある広報室からプレスをかけた。

環境問題 大学生が議論

信大で「大会」全国から70人

環境活動に取り組む全国の学生団体が集まり、日頃の活動発表などをする「環境マネジメント全国学生大会」が6、7日、上田市常田の信州大繊維学部で開かれた。県内外の8大学から約70人が参加し、環境問題への考えを深めた。

7日は学生らが5～6人のグループに分かれて意見交換。省エネを進めていくにはどうすればいいか、気象変動にどんな対策をとるべきか―といったことを議論した。6日は各大学がそれぞれの取り組みを報告した。

琉球大（沖縄県）法文学部3年の下地桃加さん(21)は「いろんな学生の考え方を知ることができてよかった。持ち帰って自分たちの活動に生かしたい」。大会実行委員長を務めた信大繊維学部3年の大崎早恵さん(21)は「同世代と環境問題について議論できる機会は貴重。互いにいい刺激になったと思う」と話していた。

グループワークでアイデアを出し合う学生たち

信濃毎日新聞：平成 30 年 9 月 8 日(土)掲載

分科会でグループごとに、SDGsの目標について議論した

信大繊維学部「環境マネジメント全国大会」

8大学から70人参加 テーマ『SDGs』

上田市

上田市の信州大学繊維学部内総合研究棟で6、7日の2日間、「第12回環境マネジメント全国学生大会」が開かれた。

同大会は全国の学生を主体とした環境系活動組織が一堂に会し、日ごろの活動発表や共通のテーマについて討論するものだ。大学と連携しながら学内外の環境に関する活動を行う学生団体「信州大学環境学生委員会」の主催。

今大会には岩手大学、千葉大学、中部大学、三重大学、大阪大学、公立鳥取環境大学、琉球大学、信州大学の8大学から約70人が参加。大会2日目の7日は、県・中島恵理副知事やNPO法人上田市民エネルギー・藤川まゆみ理事長らの講演が行われた後、分科会が行われた。

分科会では、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」記載の、2016～2030年の国際目標「SDGs（持続可能な開発目標）」をテーマに、グループに分かれて議論。「30～40代の大人に対する質の高い環境教育を実施するには」「気候変動に対する対策をしっかりするためには」など、SDGs17目標の中からテーマを絞り、それぞれが考える目標達成のための方策などを話し合った。

同大会を中心に運営する、信大繊維学部環境学生委員会・鷹澤響副委員長は「全国各地で色々な形態で活動している人々が集っているので、お互いの活動報告を聞くだけでも今後の自分たちの活動の参考になる。今年はSDGsという、具体的な環境的議論をできるのが非常に楽しみ」などと語った。

信州民報：平成 30 年 9 月 13 日(木)掲載

8-5. 収支報告

平成30年10月3日

第12回環境マネジメント全国学生大会　収支報告書

実行委員長　大崎早恵

参加費

収入					
項目	単位	数量	単価	金額	備考
参加費(1日目のみ参加・生協組合員)	名	3	500	1,500	※1
参加費(全日参加・生協組合員)	名	64	1,000	64,000	
参加費(全日参加・非生協組合員)	名	10	1,050	10,500	※2
合計				¥76,000	

支出					
項目	単位	数量	単価	金額	備考
生協レクリエーション保険(1日目)	名	57	20	1,140	
生協レクリエーション保険(2日目)	名	54	20	1,080	
損保ジャパンレクリエーション保険(1日目)	名	20	50	1,000	※3
損保ジャパンレクリエーション保険(2日目)	名	20	50	1,000	※3
お弁当・お茶(2日目)	コ	74	500	37,000	
軍手ィ(大会記念品)	コ	77	450	34,650	
合計				¥75,870	

差引収支	備考
¥130	※4

※1：1日目のみの参加者(信州大学一部学生および聴講生）からは通常参加費からお弁当・お茶代を引いた500円を徴収

※2：非生協組合員は予定していた生協レクリエーション保険に加入できないため外部会社保険に加入。ひとりあたり不足分の50円を加算して該当者から徴収。

※3：最小対象人数が20名/日という規定があったため、20名分申し込み。よってこの20名分を引いた残り人数を生協保険で申し込み。なお、生協組合員にもかかわらず、人数調整の都合上外部会社保険に加入となった参加者からは、※2に記す不足分の50円は徴収していない。

※4：大会運営費の補助に充てる

懇親会費

収入					
項目	単位	数量	単価	金額	備考
懇親会費	名	72	2,500	180,000	
合計				¥180,000	

支出					
項目	単位	数量	単価	金額	備考
食事代（ビュッフェ＋ソフトドリンク飲み放題）	名	72	2,500	180,000	
合計				¥180,000	

差引収支	備考
¥0	

8-6. 参加団体情報

岩手大学
環境マネジメント学生委員会

連絡先：
emsc@iwate-u.ac.jp

千葉大学
環境 ISO 学生委員会

連絡先：
iso-student@chiba-u.jp

中部大学
ESD エコマネーチーム

連絡先：
chubu_esd_team@yahoo.co.jp

三重大学
環境 ISO 学生委員会

連絡先：
query@gecer.mie-u.ac.jp

大阪大学
環境サークル GECS

連絡先：gaidai.eco.challengers
@gmail.com

公立鳥取環境大学
学生 EMS 委員会

連絡先：
gakuAi@kankyo-u.ac.jp

琉球大学
エコロジカル・キャンパス学生委員会

連絡先：
ecocan.ryukyu@gmail.com

信州大学
松本キャンパス環境学生委員会

連絡先：
m_esc@shinshu-u.ac.jp

信州大学
工学部環境学生委員会

連絡先：
esc_eng@shinshu-u.ac.jp

信州大学
農学部環境学生委員会

連絡先：isominamiminowa
@gmail.com

信州大学
繊維学部環境学生委員会

連絡先：
senieco3@shinshu-u.ac.jp

第 12 回環境マネジメント全国学生大会　実施報告書

改定版　2019 年 2 月 1 日発行

編者/　大崎早恵（第 12 回環境マネジメント全国学生大会実行委員長）

発行者/　大崎早恵
発行元/　信州大学繊維学部環境学生委員会

問い合わせ先/　信州大学繊維学部環境学生委員会
E-mail:senieco3@shinshu-u.ac.jp

※本資料は環境マネジメント全国学生大会が今後も開催されることを願い、参考資料となることを本望とする

※本資料は第 12 回大会参加団体すべてに配信し、その後の利用は各団体の意向に一任する

※本資料が参加学生にとって、また団体に所属する学生や所属大学にとって意義のある内容であることを願う

信　州　大　学
環境マネジメント全国学生大会
実　行　委　員　会

問い合わせ先

信州大学繊維学部環境学生委員会
〒386-8567 長野県上田市常田 3-15-1
E-mail:senieco3@shinshu-u.ac.jp